ミュンヘンへの道

4月に2週間、グンメルスバッハチームの来日が内定した。

世界一のクラブであることは自他ともに許すところであろう。

対戦相手には、全日本をはじめとして、ナショナル選手を多く含んでいるところが選ばれている。

全日本の選手は少なくとも一度は対戦することになろう。

彼らがどういう気持で遠征してくるかは判らないが、このチームから日本が最も学ばねばならないのは〝勝負に対する執念〟である。

このチーム、ドイツを国内ではあまり評判の良いチームではない。

それは、一つには強すぎるということもあろうが、もう一つは勝負に対する執念がある余り良くKOのシーンを見せることがあるからであろう。もちろん地元ではこれが〝勝負に対する執念〟の発露と受けとられているところもあり、地元での人気は抜群である。

先号でも、ヨーロッパカップにおけるグンメルスバッハのエースミュミットが豪快な（?）KOシーンを見せて、FA・ゲッピンゲンとの試合に警官隊多数の出動があったとされる記事が掲載されていた。この強さと荒々しいばかりの勝負への執念がそこを敵とするチームのファンにとっては憎みしもあり余る存在としてうつるために必ずしも好感を持たれていないことになるのであろう。

しかし、先号にも触れた通り、このチームの戦績は全く大したものである。これは単に一流プレーヤーを連れてきただけでできあがるものではない。

このチームの伝統に、〝勝つ〟ということを目的にすることが第一に築きあげられているからに他ならないであろう。

ブンデスリーガ、ヨーロッパカップを勝ち抜き、常にどの試合でもファイトをもって当るということは並大抵のことではない。

何もKOシーンを展開しろというのではない。その執念を見習って欲しいのだ。

オリンピック出場、この目的を果すためには、どうしてもこの〝勝つことに対する執念〟を養なわなければならない。韓国イスラエルともに難敵である。

この執念を学ぶことができたならば、今回のグンメルスバッハの来日何よりも大きな効果を日本に残すことになろう。（F）

時評

ブロックの活動を抜本的に考えなおす時期に来てはいないだろうか。

日本協会でも、昨秋ブロック協会役員名簿の提出を求めるなどこの問題への関心をのぞかしはじめているが、具体的な構想は白紙のままだ。

決めなおしたばかりの大会にケチをつけるのは愉快ではないが、今年から全日本総合選手権と地域はまったく無縁のものになってしまった。

学連、実連、教職連といっれいわゆるタテ割りがハバをきかしているのは、斯界の生いたちを顧ればあるいは順当なのかもしれないが、卒直にいって日本協会の土台が加盟団体だという考えは間ちがっている。

地域協会の集結したものこそ日本協会の真の姿であることを執行部に再認識してもらいたい。

もっとも、ブロックの活動や発言力が低調なのは、日本協会の姿勢ばかりに責任があるのではない。

ブロック自体の行動もかなり薄弱なのだ。

ブロック選出理事（10名）にしても、全国会議などへどれだけ自地域の意見や動向をまとめて臨んでいるか。また、全国会議の決定事項や模様を傘下の各県にフィードバックしているか、疑問である。

ブロック選手権が盛んにならないのもまずい。

学生チームがブロック選手権に魅力を感ぜず積極的に参加しないのも一因のようだし、関東、東海のように国体予選を兼ねているうちは学生は出ようにもその道を閉ざされている。いずれにせよこのあたりが〝問題点〟だろう。

協会内の急進派の一人は「学連、実連などといった組織はいまや無用の存在。日本協会学生委員会、日本協会実業団委員会といった形にして、役員の選出母体をすべて地域にすべきだ」という意見を持っている。現状では暴論といわれかねないが、検討すべき考えかただと思う。

現場――プレイヤーのなかにも学連、実連といったワクにあきたらない、といった声がおきはじめている。

『強いチームはできるだけ多く強い相手と試合をさせるシステムを考えるべきだ。そうでなければ全体的なレベルアップはとても望めませんよ』あるオリンピック候補選手の弁だ。

理想の実現のカギをブロック（地域）活動が握っていることを忘れてはいけない。（X）

「ハンドボール」3月号（第84号）目次

【表紙写真】白花醸造チーム（2月14日羽田空港にて）

3国会談無期延期

——最大の課題はイスラエルとの接渉——

2月19日から開催する予定であったオリンピックアジア地区予選の打ち合せを主要議題とする三国会談はイスラエルからの連絡が遅れたため、また後述するようなイスラエルの新提案がきたため、無期延期せざるを得なくなった。

10月の評議員会、理事会の日本誘致決定。11月の訪韓、以後イスラエルには、手紙で意向を打診、その返事にアジア大会でイスラエル役員と接触してくれとの連絡。ここで日本は条件を提示して、イスラエルの連絡をまった。その間こちらからは何度となく、連絡をもらうように、手紙、電報で接触を図ったが、音沙汰なし。たまりかねて、1月23日にイスラエル大使館に依頼し、テレックスによる連絡をとることになった。

この返事も2月の4日になって手紙が行きつつあるそれを読んでくれという不得要領のもの。ようやく2月6日になって、こちらは手紙は受けとった。

イスラエルはスタジアム開きを兼ねて、イスラエルで予選を行ないたい。往復旅費の40%と滞在費をもつからイスラエルで予選を行ないたいとする趣旨の条件の呈示が主な内容であった。

日本協会では、早速、これに対し協議をしたが、イスラエルからの手紙では要領を得ない。スタディアムというのが室内体育館を意味するかどうか不明確である。屋外にスタンドをつけたようなものではできない。建設途上で完工がいつになるか判らない建物でやることを決めるには問題が多いなどの理由でイスラエル提案は拒否し改めて日本案をもう一度呈示し、難点があれば、そこを明確にしてほしいという一項をつけて、なお文書による連絡を続けることにした。また現状をIHFに連絡する。

現在では、日本、イスラエルの両提案は全く平行線をたどっており、イスラエルに日本案を納得させることには、かなりの困難が予想される。日本としては、日本開催を第一にし、悪くてもホームアンドアウェイ方式をとることを考えているが、この場合には、イスラエルに正規のコートのとれる体育館があることを早速に確認しなければならない。前回の世界選手権で東ドイツがイスラエルの体育館で正規のコートがとれないため予選の第二試合を拒否して、是認されている事実もあり、この点は一つの大きな問題となろう。

審判部

審判員全国研修会は今年度は中止

一昨年から行なわれ、好評であった全日本審判員研修会は本年は実施しないことになった。

これにかわるものとして、審判部合同委員会で規則などの統一をはかり、ブロック毎に、責任をもって研修会を実施する。

各全国大会の一日前にその大会の審判員は会場地に集合して、研修会を実施する。

46年度に日本で実施される国際試合には、71年の国際審判員である8氏が担当することにする。

以上が主な決定事項であり、これは1月24日の全国理事会に報告了承された。

C級はブロックで D級は都道府県で

46年から県案であったC・D級の審判審査をC級はブロックで、D級は県で審査をし、申請から認定までの手続の合理化とスピードアップをはかることとなった。これらを3月31日までに日本協会に報告し、4月1日付の認定とすることになった。

45年度の審査結果はD級申請290名、全員が合格している。C級は申請者は75名あり、うち60名が合格している。

A・B級は申請者に対し、ペーパーテストと実技テストを行なう関係で、合格者は決定していないが、A級申請者14名、B級申請者33名で申請書、推薦書の不備、手帖の記入不備。管理者の印もれ、講習会不参加などの書類不備が半数近くあったのは問題である。

A級・B級申請者のテストは5月中旬に東京で三日間行なわれる予定になっている。

第一日は講習会、第二日、第三日に実技、ペーパーテストが行なわれる。

公認審判各級へ申請を出される人は、もう一度良く、規定を読みかえすこと（本誌75号、9頁に掲載してある。）本年よりD級申請者の審査、認定料は千五百円になる。A（二千円）、B（一千五百円）、C（一千円）は従来通り。

審判審査委員は 国内試合は審判をしない

本年から、審判審査委員は、国内試合の審判を行なわず、管理、指導に力を注ぐことになった。本年国内の対外国の試合は国際審判員がジャッジすることも決定した。多くの国際試合が予定されている本年国際審判員はかなり忙しい日々を送ることになろう。

昭和46年事業などを協議

全国理事会（1月24日）開く

現スタッフによる最後の全国理事会は1月24日、日本体育協会に田村会長、西・渡辺両副会長、荒川理事長ほか二四理事が出席し、開催された。

オリンピック予選、スウェーデンとの国際試合、女子世界選手権全日本選抜の6月、全日本総合の12月移行などの重要事項の審議がなされた。

詳細な内容は3月6日の新スタッフによる理事会、3月7日の評議員会で決定することになる。

事業日程

ここでは、オリンピック予選、スウェーデン招待、女子7人制世界選手権が大きな国際交流となろう。また日韓交流が四度組まれていることが目新しいところであろう。

それとともに国内的には、全日本総合選手権が文字通り、国内最高の大会として、12月に移行すること、それに伴って、全日本選抜実業団選手権の夏季移行という大会日程の改正も大きな事柄であろう。

それとともに昨年成功裡におわった全国中学校指導者講習会が第二回を迎える。

昭和46年度事業日程（案）

▽は予定

▼第3回全国自衛隊大会　5月16，17日　駒沢
▽第2回全国中学校指導者講習会　5月下旬　東京
▼昭和46年度全国実業団トーナメント　6月上旬又は中旬
▽第5回日韓学生男子交流　6月中旬　ソウルほか
▽第1回日韓学生女子交流　6月下旬　東京ほか
▼第18回NHK杯全日本選抜大会　6月25，26，27日　東京体育館
▼第12回全日本実業団選手権（日本実業団リーグ）　7月上旬
▼第22回全日本高校選手権　8月2日～7日　松山市
▽第4回日韓高校交歓スポーツ大会　8月中旬　東京（？）
▼第14回全日本教職員選手権　8月19日～22日　鹿児島県隼人町
▼第21回全日本学生選抜東西対抗　9月5日　愛知県体育館
▼日本・スウェーデン国際試合　9月3日～18日　別掲
▼第26回国体ハンドボール　10月24日～29日　和歌山県打田町
▼第14回全日本学生選手権　11月3日～7日　東京
▽オリンピックアジア予選　11月14日～28日
▼第23回全日本総合選手権　12月14日～18日　東京　又は12月15日～19日
▼第5回世界女子7人制選手権　12月9日～20日　オランダ
▽第2回日韓社会人交流　47年2月　未定

日本・スウェーデン国際親善試合

9月3日	（金）	横浜	対	全日本
5日	（日）	甲府	対	全日本
8日	（水）	東京	対	全関東学生
11日	（土）	大阪	対	全日本
12日	（日）	四日市	対	
15日	（祝）	熊本	対	全熊本
18日	（土）	東京	対	全日本

全7試合　来日は9月1日の予定

予算問題

種々の事業が予定されている46年度の予算は46年度の倍近くにあたる予算が組まれている。細かい点は3月の新理事会評議員会で決定されることになろうが、一般会計で二千万円近くになり、スウェーデンオリンピックの特別会計を入れると三千万円をこえる形になっている。各部とも緊縮財政を余儀なくされよう。

第18回全日本選抜は選抜チームによって

第18回全日本選抜は夏季に移りとにかく〝見せる試合〟をする大会にすることを主眼に、男女とも従来の単独チームに変って、選抜チームを主体にした大会にしていくことが申し合された。

総合選手権は男子16、女子12チーム

総合選手権は冬季に移り、各界の代表チームを集め、文字通りの日本一を決める大会にすることになり、男子は前年度優秀チーム、全日本学連、全日本実連、全日本教職員、全自衛隊、社会人、高校界代表、開催地代表からなる16チーム、女子は前年度優秀、全日本学連、全日本実連、社会人、次年度国体開催地代表、高校界代表、開催地代表からなる12チームによって争われる。

大会期間は5日間、男女ともトーナメント・リーグ方式によって行なわれる。

男子は16チームを4チームづつに4グループに分けたトーナメントを第一日、第二日に行ない、ベストフォアを選び、第三日、第四日、第五日に総当りリーグを行ない順位を決める。

女子12もチームを4チームずつの3グループに分けて、第一日と第二日にトーナメントを行ない、ベスト・スリーを選び、第三、四五日に総当りリーグを行なって一二、三位を決定するという形である。

将来は女子も16チームにし、男子同様の試合形式をとることになろう。

日本予選なしで本大会へ

—ハンガリー（世界選手権保有国）オランダ（開催国）とともに—

第4回女子世界選手権申しこみは14ヶ国

日本協会に入った国際ハンドボール連盟の公報によると、本年12月9日~20日にかけてオランダで開かれる第4回女子世界選手権大会の申しこみ国は14ヶ国（後掲）であり、本大会は9ヶ国で行なわれるので予選が行なわれることになった。

幸い我が国は2、3回と連続出場している実績が認められてか、実力が認められてかははっきりしないが、9ヶ国の場合には、選手権規定では認められていない、大陸代表ということになり、予選は免除され、いきなり、オランダに於ける本大会に出場できることとなった。

このほかに、世界選手権の規定通り、開催国オランダと、現選手権者ハンガリーが予選を免除されている。

申しこんだ14ヶ国は次の通り、ブルガリア（前回不参加）、西ドイツ（前回3位）、チェコ（前回3位）、デンマーク（前回5位）東ドイツ（前回は予選でハンガリーとあたり、一勝一敗、得失点差なし、抽せんまけ）、オランダ（前回予選でソ連に敗退）、日本（前回7位）、ユーゴー（前回2位）ノルウェー（前回予選でポーランドに敗退）、ポーランド（前回8位）、ルーマニア（前回6位）、スウェーデン（前回第一予選でノルウェーに敗退）、ソ連（前回予選通過後棄権）、ハンガリー（前回優勝）

前回の選手権から6年の歳月が流れている。地図は大きくかえられている。これら14ヶ国のうち、日本、オランダ、ハンガリーを除く11ヶ国が予選を行なうことになり、そのうち6ヶ国が本大会に出場し、5ヶ国がおちるという形の予選が行なわれる。

前回は予選6カード、前回出場国で今回出場していないのは、アイスランドと北米合衆国である。

流回となった68年では、5カードの予選が組まれていて、参加申しこみをしたのは今回と全く同じ顔触れが出ている。

興味深い予選組み合せ

—どうなるるか東独・ソ連の相手—

今回もっとも興味深いのは予選の組み合せであろう。前回の6位は対戦しないので、ユーゴ、西ドイツ、チェコ、デンマーク、ルーマニアこれらの五ケ国はたがいに対戦しない。これらの五国とソ連、東ドイツ、ブルガリア、ノルウェー、ポーランド、スウェーデンが対戦することになる。

現在の女子の世界の実力は東ドイツ、ソ連が図抜けていることは衆目の一致するところであろう。その二ケ国が、今回は2~6位に入っていないところが今回の一番の問題点であろう。

東ドイツは前回、予選でハンガリーとぶつかり、実力的には全く互格であったが、抽せんによって予選で敗退という不運に泣いている。本大会に出場すれば、もちろん1~6位に入っていることは間違いがなかろう。ソ連も前回予選を通過していながら、西ドイツに西ベルリンは入っていないのだから、西ベルリンで行なう試合は開催国西ドイツでの試合とは認め難いという理由でIHFに提訴、これがいれられないと、棄権して、抗議の意志を表明した。

そのような訳で、実力抜群の二ケ国が入っていない。そしてこの両チームと対戦するチームはまず予選で敗退することは間違いのないところである。果してどこが、貧乏くじを引き当てるかすこぶる興味がもたれる点である。

IHFは割合にムトンチャクに強敵同志をぶつけることをしばしばやっているから、どこにでもぶつけかねない。実力ナンバー3と目されるユーゴあたりとぶつけることもやりかねない。どのような形になるかすこぶる興味深い。

グンメルスバッハの来日内定

4月上中旬に二週間

日本協会では、西ドイツのというより世界のトップチーム、グンメルスバッハの訪日の希望を受け入れることになった。

この申し出が、日本に届いたのが1月、それから各地と協議を重ねた。

きわめて有益ということは期待されたが、日時が切迫しており、果して大会開催が可能かという点でなかなか決断をくだしかねていたが、各地の意向が呼ぶべしとの強い意向が出、開催可能のメドがついたので、招待することに決定した。

同チームは4月3日に来日、大阪、京都、名古屋、静岡、東京の各地で5~7試合を行なう予定にしている。

そのうちには、一試合は全日本と対戦する予定になっている。

このほか、グンメルスバッハと対戦を予定されているチームはナショナル候補選手が入っているチームが多いので、強化には大いにつながることが期待される。

ルブキングがトラブルをおこしたあと、完全なドイツナンバー1のアタッカーシュミット、ポダクのあとを受けてゴールを好守している現在のナショナルチームのトップGK、カーターなどのプレーが楽しみである。このほかにもドイツナショナルチームに入っている選手が数人いるし、文字通りのトップチームである。本年度のヨーロッパカップでもすでに準決勝進出が決定しており準決勝で当るのは幸運にめぐまれた。ポルトガルチーム、決勝進出は固い。

好試合、好プレーを期待したい。

大崎、ビクターともに快勝

―初の日韓女子交流白花好印象を残し離日―

韓国女子実業団、白花醸造チームを迎えて、初の日韓女子交流は2月15日東京都体育館に於ける対大崎電気戦を初めに、日本ビクター、ブラザー工業、田村紡、新居浜クラブと五試合を行ない、2勝2敗1分の成績で2月23日大阪空港から帰途についた。

その基本技術に忠実で、基本技術を良くマスターしていた試合ぶりは、日本各地の多くのファンに好感を与えた。今後、試合数をつめば、難敵となることを予測させる戦いぶりであった。プレーは男子と良く似ており、豊かな瞬発力を生かしての攻撃、瞬間的判断を制しての機敏なシュートと多くの可能性を秘めている。

（三・四・五試合は次号に掲載する予定です）

白花醸造チームの姜団長以下十六名は二月一四日午後四時大韓航空機で来日し、田村会長、荒川理事長、田中実連理事長、佐野東京都理事長らが出むかえた。

全員、紺のツーピースをまとい高校を出て一、二年の選手が主体だけに、いかにも若々しい。この出迎え風景を見ている人々の中から、高校生チームかしらという声が出るほど。

一行は都協会さしまわしのマイクロバスに乗り、宿舎の日本青年館に向った。

翌15日は東京観光をした後、第一試合の対大崎電気戦にのぞんだ。

大崎前半で決める

▽第一戦（2月15日、於東京体育館、観衆千五百）

大崎電気 11（6－3 5－5）8 白花醸造

【大崎】得		
GK	和田	0
	小堀	0
FP	木幡	6
	新島	1
	寺尾	4
	三浦	0
	長谷川	0
	佐藤	0
	岩井	0

（審・岡村 岡前）

【白花】得		
GK	李太姃	0
	李英淑	0
FP	李鉉順	1
	李徳子	0
	兪慶淑	0
	鄭順福	0
	金智現	0
	権美子	3
	崔承美	0
	高善竜	3
	朴光子	1
	安康季	0

11（1）7MT（1）8

試合は大崎の先取点ではじまった。前半大崎は常に先手をとりながら、追いつかれ、またすぐに引きはなすという試合経過で、前半は大崎が点を開いて、6－3でおわった。

白花はパス、キャッチ、シュート、フットワークなどの基礎技術はきわめて洗練されたものをもっている。

特に瞬間的な判断を必要とするプレーには優れたものをもっている。

ただ試合馴れしていないのが、チームとしては一つの欠点となっている。この点が多くの試合をすることによって、解決されるならば、すばらしいチームに成長すると考えられる。

試合は白花のシュートが惜しいところではずれる場面が多く、大崎以上のシュートを放ちながら、破れる結果につながった。

大崎も良いできではなかったが国内の激戦を斗いぬいているだけに、自己のペースで試合するコツをこころえているだけに、自分のペースで一試合をのりきり、日韓初の女子交流の第一試合の勝利を握った。

ビクター後半快調に攻撃

▽第二戦（2月16日、於水海道二高体育館 観衆二千二百）

日本ビクター 17（5－3 12－6）9 白花醸造

【ビクター】得		
GK	吉田	0
	渡辺	0
FP	江川	3
	八重樫	2
	蓮見姉	0
	阿保	6
	大塚	4
	蓮見妹	2
	滝	0
	谷沢	0

（審・永山 山内）

【白花】得		
GK	李太鄭	0
	李英淑	0
FP	李鉉順	0
	李徳子	0
	兪慶淑	4
	鄭順福	0
	金智現	0
	権美子	2
	高善竜	1
	朴光子	1
	安康季	1
	黄月映	0

17（2）7MT（0）9

第二戦は第一戦で日本チームとの対戦にもなれた白花がどのような戦いぶりを示すかに期待がもたれた。一方のビクターも15日の試合を見、研究を重ねていた。

前半はビクターはなかなか自己のペースにのりきれなかった。

一方、白花は昨日の大崎電気戦と違い、当りのきわめて強い、ビクターにとまどい気味、負傷退場者も出す始末。40分には、10－9と追いついたが、残る10分間にビクターに7点を連取されてしまった。国内で常に強い当りとせりあいに慣れているビクターときれいな試合ぶりの白花との差が最後に出たものと考えられる。

▽第三戦

白花醸造 8（6－4 2－4）8 田村紡

▽第四戦

白花醸造 10（5－5 5－3）8 ブラザー工業

▽第五戦

白花醸造 11（5－3 6－4）7 新居浜選抜

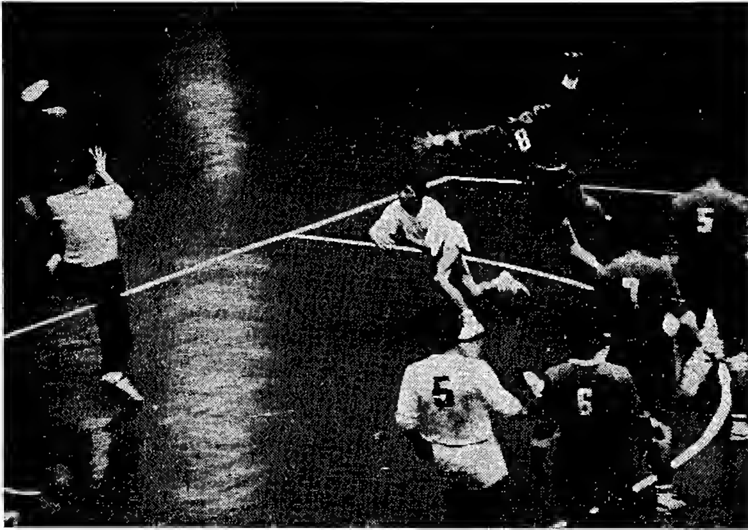
リーグ予想

大崎・ワクナガ大同・三ツ巴の争い

全日本実業団選手権は3月2日から横浜市で新装なった平沼体育館などを使い開催される。

全国のトップチーム男子12、女子8が一堂に会しての試合。チーム同士の対戦もであるが、多くの男女全日本候補選手の試合ぶりが期待される。ミュンヘン、オランダにかける球界の期待にたがわぬ試合ぶりを切望したい。

（編集部）



（大崎—ワクナガ）光島磯雄氏提供

男子リーグ

昨年のベストエイト（大崎電気、三景、常盤工業、住友化学菊本、日進商会、新日本製鉄名古屋、宗形製作所、本田技研）にトーナメントから勝ちあがった4チーム（ワクナガ薬品、大同製鋼、大山商会、丸善石油下津）を加え、計12チームを6チームずつにわけ、準決勝リーグを行なう。その1、2、3位、同士によって、それぞれ順位決定戦を行なう試合形式をとることになっている。常盤工業が都合で出場できないため、かわってセントラル自動車が出場する。

組み合せは別表の通りである。Aグループでは、大崎と大同の争いという所になろう。

全日本選抜における大崎は練習量不足もあってか精彩を欠いていたが、十年連続優勝という偉業をなしとげているこのチーム、この大会にかける情熱はたいへんなものがある。一方大同も今一歩の力不足で大会のタイトルに手が届きかけながら、果せずにいる。ここ一番の奮起を望みたい。日進商会新日鉄、本田技研、大山商会も力はつけてはきているが、前述の二チームと対等に戦うまでの戦力になっていないのは残念である。準決勝リーグの三位までは、46年度の大会に出場資格が得られる。むしろこの三位の座をめぐる争いは激戦となろう。

Bグループでは、ワクナガの優位は動かせまい。総合・選抜準優勝、国体優勝の実績は国内の超一流チームに成長した。これに対抗できるのは三景であろうが、現在のワクナガの力から見ると一寸これを破るのは苦しかろう。このグループでも三位をめぐる争いはきびしい、住友化学菊本、宗形製作所が有力と見られるが、めっきりと力をつけた、丸善石油、セントラル自動車もあなどり難い。

結局の所、決勝戦は大崎電気もしくは大同製鋼——ワクナガ薬品の組み合せになると思われるこの場合、大崎電気がでてきても大同製鋼がでてきても、ワグナガ薬品とは手の内をしりつくしている間柄であるので、種々のかけひきとともに微妙なところで勝負が決ることになろう。現在の状況では僅かにワクナガ薬品が有利かとも思うが、五連戦の後の決勝戦、コンディショニングの問題も重要な鍵となろう。

今年度の実業団選手権の男子はワクナガ、大同の充実によってかってなく面白い試合が展開されよう。大崎電気に勝るとも劣らないところまで力をつけた両チームの抬頭は実業団球界を国内球界のトップの座にひきあげる大きな要因となった。熱戦とともにハイレベルの試合を期待したい。

大洋の四冠が焦点

激戦二位争い

女子リーグ

女子は別表の通り、8チームの参加、文字通りの現在女子球界のトップレベルのチーム、選手の参加によって、最高の熱戦が展開されることが期待される。

全日本女子候補も各チームにわかれ、出場する。

なんといっても、この大会の焦点は大洋の二年連続の四冠王という大偉業がなしとげられるかどうかという点にかかっていよう。



写真は全日本選抜大会（大洋—ビクター）

今年の大洋は、全日本総合、国体、全日本選抜と三大会のタイトルをすでに掌中にしており、しかもすべて勝っている。昨年度は四冠王といっても、選抜では大崎に実業団では田村紡に敗れている。

今年は無傷、果してこのまま、つっぱしり、栄冠を握ることができるかどうか、この大会の見所はこの点につきよう。

まずAグループで大洋と対戦する東京重機にチャンスがあろう。東京重機のチーム力はあがっており、東京大会では大崎に堂々と勝っており、実力は高く評価されている滝口、牧野（全日本候補）の力が伸び、守備もGK長岡（全日本候補）が安定している。今年度は各大会でくじ運にめぐまれず、上位に進出がかなわなかったが、この大会での飛躍が期待される。

ブラザ、東北宗形の力もあがっているが、この両チームをたたきおとして決勝リーグに進出することは困難であろう。

Bグループでは、大崎とビクターが決勝リーグに進出するとするのが大方の予想である。

今年の田村紡の力では、この両チームに勝ち、決勝進出を果すのはやや苦しかろう。大洋紡はこれらにかこまれて苦しい。

結局決勝リーグは大洋、重機、大崎、ビクターで争われることになろうが、どのチームがどこまで大洋に喰い下がり、あるいは大洋を破るかという点、はなはだ興味深い、3チーム三様の持ち味をもち、可能性を秘めている。

いずれにしても順当にいけば大洋の垂水、渡辺（いずれも全日本候補）を中心とする攻撃とGK小原（全日本候補）の堅守によって大洋の大偉業が達成されるとみるのだが他チームの奮起により、盛りあがりのある大会にしてほしい

男子準決勝リーグ

（A組）
大崎電気（埼玉）
日進商会（神奈川）
新日鉄名古屋（愛知）
本田技研（三重）
大同製鋼（愛知）
大山商会（大阪）

（B組）
三景（東京）
住友化学菊本（愛媛）
宗形製作所（大阪）
ワクナガ薬品（大阪）
丸善石油下津（和歌山）
セントラル自動車（神奈川）

各組1・2・3位同士により1・3・5位決定戦

女子準決勝リーグ

（A組）
大洋デパート（熊本）
東京重機（東京）
ブラザー工業（愛知）
東北宗形製作所（福島）

（B組）
大崎電気（埼玉）
田村紡（三重）
大洋紡（岐阜）
日本ビクター（茨城）

両組1・2位同士による決勝リーグ

ワクナガ初優勝 2位 大同製鋼

三位に大山商会　丸善石油下津

—全国実業団トーナメント—

全国実業団トーナメントは2月7日から10日まで名古屋市の愛知県立体育館などで開催された。

全国各地から、三十チームを集め、連日熱戦がくりひろげられたが、予想通り、強チームを相手に抜群のチーム力を見せて勝ち進んだワクナガ薬品と大同製鋼が決勝で顔を合せ、前半はほぼ互格であったが、後半力にやや勝るワクナガがふりきり初優勝。

3月2日から横浜で行なわれる全日本実業団選手権には、ワクナガ薬品、大同製鋼のほかに、準々決勝を勝ちぬき、この両チームと準決勝で対戦した、大山商会、（大阪）、丸善石油下津（和歌山）が出場することになった。

本年度のこの大会は、現在の実力から言えば、国内最強のチーム力を誇っているワクナガ薬品、大同製鋼の両チームが出場していることで、ことさら球趣はもりあがった。両チームともオリンピック候補選手を二人ずつもち、この候補同士の対戦という興味もあったが、今回はワクナガに軍配があがったが、3月の実業団リーグではどのような結果になるか期待されるところである。

▽一回戦

自衛隊宇都宮（栃木）	31	15—7 16—3	10	日本合成ゴム（三重）
境港市役所（鳥取）	22	10—6 12—4	10	タヨシ産業（愛知）
川崎重工（兵庫）	20	11—9 9—10	19	大成プレハブ（東京）
日本発条（神奈川）	17	8—6 9—10	16	三菱レ大竹（広島）
丸善石油下津（和歌山）	22	4—2 1—2 7—8 10—9	21	三菱油化（三重）
日本鋼管福山（広島）	31	12—11 19—9	18	大阪ガス（大阪）
自衛隊勝田（茨城）		不戦勝		北陸電力福井
日本鋼管京浜（神奈川）	26	13—4 13—5	9	トヨタ車体（愛知）
大山商会（大阪）	14	3—8 11—3	11	日新製鋼呉（広島）
山陽パルプ岩国（山口）	32	13—14 19—4	18	静岡日野自動車
富士レジン（兵庫）	30	17—8 13—10	18	安田生命（東京）
日本硝子（愛知）	21	9—9 12—11	20	京都信用金庫
セントラル自動車（神奈川）	25	16—8 9—4	12	金沢市役所（石川）
神戸製鋼（兵庫）	25	14—8 11—4	12	自衛隊下総（千葉）

○……一回戦から好試合が見られたが、もっとももつれたのは丸善石油と三菱油化である。開始早々は丸善、ついで油化というように互にとりつとられつの好試合、油化が前半に7MTを二本はずしたのがひびき、丸善1点リードで前半を終る。後半に入ると、丸善は前半の松本に代り、後半は刀禰がよくあたり、50分には17—13と4点差をつけ、勝負あったかに見えたが、油化もよく粘り、残る10分間に栗山らが良く4点をあげ延長にもつれこんだ。延長後も、三度同点というシーソゲームであったが、丸善が刀禰、堤本の好シュートで粘る油化をつきはなした。

○……日本碍子京都信金も面白かった。碍子の餅原、信金の福井の打ち合いとなったが、ペースのつかみかたにやや長じた日本碍子の勝利となった。

○……大山商会——日新呉は一回戦屈指の好試合と目されていたが前半は大山、後半は日新とペースがガラリと変った試合が展開された。前半は大山がGK川原の好守からの速攻、ゴール前でのすばやい球廻しからのシュートと面白いように得点を重ねた。

後半に入ると前半の大山のペースは消えて、日新のペースとなり着々と点差をつめられたが、前半の大量得点をGK川原が良く守りきった。

○……日本発条——三菱レイヨンは点差は接戦であったが、大味で盛り上りに乏しかった。発条は終盤になって、長身選手に球を集めるとともに、リードマン北村も自らよく得点をあげ、不利な試合を逆転した。三菱は50分せっかく3点差としながら、以後、得点が全くとれなかったのが直接の敗因。発条はミスが多かったのが苦戦の因。

○……大成——川崎重工も終始スローペースであったが、シーソーゲームとなった。川崎重工は小田和田、川谷らの活躍で大成をふりきった。一方の大成はダブルポストをしき、これが成功し、更には鳥井のリードと良く反撃したが、後半は試合のペースを握れぬままに、川崎のペースで戦い、破れ去った。

○……日本鋼管福山と大阪ガスは後半、新人の三田の活躍、これに加え、辻野、恵美らの好技でよく喰い下がったが、前半のミスを得点に結びつけられ、大量得点を許しており、どうにもならなかった。

○……境港市役所は若干練習量に不足は感じられるが、タヨシを完全につきはなして、二回戦に進んだ。

○……富士——安田は前半ややもつれるかに見えたが、安田に疲れが見えたところにつけこんだ富士がたたみこむように得点をあげ、勝利を飾った。富士の林、ポストに入った狩野の大量得点がめだった。

○……あとは順当に試合が展開した。それぞれの試合で、強いと目されていた山陽パルプ、神戸製鋼、セントラル自動車日本鋼管京浜、海上自衛隊宇都宮が大量点をあげて、勝った。

これらの試合、いずれも、実力差がかなりあり、個人技の優劣、基礎技術の有無というようなところではっきりと勝負がついている。

悪条件下にあるチームも、その条件を一つでも酷服し、次年度には少しでも好成績を残せるように練習にはげむべきであろう。

しかし、一回戦から充実した試合が随所に展開されたことはきわめて喜ぶべきことであろう。

一年々々と好試合が増加し、実業団球界の充実されつつあることが感じられるのは嬉しい。全体の

レベルアップがなしとげられてきているというべきであろう。

日本発条　丸善
下津に破れる

▽二回戦

ワクナガ薬品（大阪）　38（18—8、20—6）14　自衛隊宇都宮
境港市役所　16（8—6、8—6）12　川崎重工
丸善石油下津　20（14—9、6—9）18　日本発条
自衛隊勝田　25（14—15、11—8）23　日本鋼管福山
大山商会　24（14—10、10—6）16　日本鋼管京浜
富士レジン　23（14—10、9—7）17　山陽パルプ
セントラル自動車　39（21—11、18—6）17　日本碍子
大同製鋼愛知　27（11—13、16—4）17　神戸製鋼

二回戦の中では、丸善石油—日本発条、自衛隊勝田—日本鋼管福山の両試合がもつれた。この4チームとも3月の実業団リーグに駒を進めると見られる有力候補である。

前者は20分まで両チームとも3度同点という互格の試合、20分から30分の間に発条は3点をあげ、9—6と3点のリードで終る。後半になると丸善は刀禰、提本が良く当り、42分には同点においつき以後、一挙に発条をぬき去り、自己のペースでもって、後半を戦いぬいた。発条はGKに今一つのところが見られたのは残念だった。

後者は前半の勝田は全員が良くシュートを決め、20分までは完全な勝田ペースでとリード、前半の残る10分に福山はやっと調子を整え反撃、11—8と点差につめた。

後半も勝田は全員がムラなく得点をあげた。福山は45分まで一休みしていて僅かに2点、ここで19—10と9点差がついてしまった。このあとの福山の追いこみはものすごく、僅か15分の間に13点をあげる猛攻ぶり、松村、辺見、藤島がバリバリ得点をあげたが、勝田も得点をあげ、粘る福山をつきはなした。福山のハーフ前半調子の出なさは考えるべきではなかろうか。

○……ワクナガ薬品—自衛隊宇都宮はパスワークに勝るワクナガの全く一方的ゲーム。宇都宮も良くワクナガに対戦、バック陣の乱れに乗じて、良く得点をあげ、最後まで点差にめげず良く健斗をした。ワクナガのパスワーク、シュート力は抜群である。

○……境港市役所—川崎重工両チームとも攻撃に決め手を欠き、単調な攻撃をくり返した僅かに境港は松本、宮辺の長身選手が良くつっこみ、ロングシュートで得点をあげ、得点を重ねてふりきり、辛勝した。

○……大山商会——日本鋼管京浜は若さに勝る大山が良く走り廻り佐藤の好リードから、奥川、前島に打たせて大勝した。京浜のリーグ復帰の野望は消えた。

○……富士レジン——山陽パルプは山陽はゴール前で動きがとまりその後は個人技に終始したのに対し、富士レジンは全員良く走り、シュート体勢までもっていき、そこから決めるか、それから得た7MTを良く決め、試合を自己のペースではこんだ。

パスワーク、シュートともに勝る富士の順当勝ちとなった。富士の狩山がこの試合でも、良く10点をあげる活躍を見せた。

○……セントラル——日本碍子に予想外の大差となった。セントラルは若崎、峰、中村を中心にしたパスから羽毛田、小沼、加藤をポストに入れ、ポストから、ミドルから多彩なシュートを放ち、大量点をあげた。一方碍子は餅原を中心に攻撃したが、シュートミスが多く、得点を重ねられなかった。セントラルのディフェンスの悪さが気になった。

○……大同——神戸製鋼は前半大同の一方的試合運びとなり、大同は抜群のシュート力と試合構成で前半で勝利をものにした。

しかし、神戸製鋼も後半、大同が前半のリードに気を許したスキにつけこみ、点差をつめたがとうてい及ばなかった。

ワクナガ、大同
抜群の強さ
丸善石油、大山商会とともにリーグへ

▽準々決勝

ワクナガ薬品　29（11—11、18—2）13　境港市役所

得	【境市】		【ワガ】	得
0	松本	GK	今井	0
0	先灘		杉野	0
6	門永	FP（審・小西 梅田）	市原	3
0	松本		木野	3
0	足立		早川	3
4	宮辺		森	5
0	武良		高橋	9
3	松本		戸田	0
0	本角		松井	1
0	門永		藤井	5
0	井田		菅	0
0	杉木		村中	0
13	（0）	7MT	（1）	29

ワクナガは前半はスパートし、決定的な16点差とした。後半、境港市役所はワクナガのメンバー交替のスキをついて、良く追撃したが、前半の差と実力差をいかんともすることもできなかった。

しかしながら、前半の得点差にめげず、後半良く、門永、宮辺の攻撃力で粘り、最後まで健斗をした境港市役所の戦いぶりを賞してよかろう。

ワクナガ薬品は万べんなく得点を重ねたが、その中でも9点をあげた高橋の活躍と境港にあっては後半良く得点をあげた門永の6点宮辺の4点が光っている。

丸善石油下津　27（31—7、14—7）14　自衛隊勝田

得	【勝田】		【丸善】	得
0	関島	GK	堀江	0
0	諸田			0
1	平山	FP（審・岡本 藤田）	岸本	3
0	富永		辻井	3
1	増田		三木	1
1	新山		松本	7
4	小松		刀禰	8
5	日高		堤本	5
0	高原		小川	0
2	押野		上辻	0
0	玉城		兼子	0
14	（1）	7MT	（2）	27

○……自衛隊の雄・勝田も国体を控え強化に努めている丸善の前には手も足も出なかった。

丸善は5分三木のゴールを初めとして、松本、堤本、刀禰のシュートが良く決り、スタートから完全に自己のペースで試合を進めた

勝田は8分から9分にかけて、日高の連続得点によって、2—2のタイとしたあとは、丸善のペースに巻きこまれ、時折得点をかえすが、ペースに乗れず、前半をおわった。

後半も同様の試合経過で進み、丸善の一方的な勝ちとなった。丸善では堤本、刀禰のパスが大量得点を生むきっかけとなっていた。

勝田も最後まで、試合を捨てず健斗したが及ばなかった。

大山商会　19（8—11、11—7）18　富士レジン

最後までもつれた試合。大山は富士の県命の追撃をふりきり、前半の優位を生かし、辛勝し、リーグ入りのキップを辛うじて手にした。

富士は狩山のポストプレーを中

【大山】	得		【富工】	得
川原	0	GK	中谷	0
			竹尾	0
中村	1	FP（審・浅野 赤松）	林	4
奥川	3		横野	1
前島	9		鈴木	3
佐藤	5		小森	0
伊藤	0		河野	3
山口	1		狩山	7
梅尾	0		向田	0
越智	0		十河	0
花谷	0		渡辺	0
			安田	0
19（2）		7MT		（2）18

心としたチームで、セット中心の遅攻、大山は速攻を中心としたチームで、好対照を見せていた。

実力的には全く互格といって良かったが、大山は常に先手をとっていたのが大きな勝因となった。

スタートは3分大山奥川の7MT、両チームとも決定力を欠いたが、7分を過ぎるころから、富士の林、狩山タイ大山の前島、佐藤の得点のとりあいとなったが、常に大山がリード。後半に入って、富士が狩山のポストで追いあげたが及ばなかった。

大同製鋼 30（14—9，16—8）17 セントラル自動車

【大同】	得		【セル】	得
柳川	0	GK	吉賀	0
倉谷	0			
戸谷	6	FP（審・稲石 鈴木）	羽毛田	4
野田	6		中村	5
藤中	9		小沢	0
加藤	3		若崎	0
西村	3		峰	6
伊藤	0		加藤	2
山本	0		飯田	0
小松	0		鎌田	0
杉原	3		真木	0
小沢	0		里	0
30（2）				（1）17

セントラルも良く喰い下がったが、強化につとめている大同に対しては善戦の域を出なかった。

セントラルは、立ちあがり5分までに、羽毛田、中村、加藤と3点を連取し、気勢をあげたが、10分から、僅か1分半の間に、藤中一人に3点を連取され、すぐに追いつかれ、そのあとは完全な大同ペースの試合となってしまった。大同の野田・藤中のリード力は抜群であり、シュート力も見事なものだった。

ワクナガ、大同予想通り勝つ

▽準決勝

ワクナガ薬品 28（14—3，14—8）11 丸善石油下津

【ワク】	得		【丸善】	得
今井	0	GK	堀江	0
杉野	0			
市原	4	FR（審・　）	岸本	0
木野	4		辻井	2
早川	4		三木	2
森	1		松本	1
高橋	7		刀禰	4
戸田	0		堤本	2
松井	2		小川	0
藤井	3		上辻	0
菅	3		兼子	0
村中	0			
28（3）		7MT		（0）11

○……前半からワクナガは木野、早川のオリンピック候補を中心に若手をよく使い、全員攻撃でグングンとばして一挙に14—3と引きはなした。

一方の丸善は立ちあがり、やや固く、シュートミスが目だち、守備もマークが甘く、ワクナガの気迫に押され勝ちとなり、3点を入れるのがやっとだった。

後半もワクナガは終始リズミカルなパスワークで試合のペースを掘り、メンバーチェンジをしばしば行なう予裕をも見せた。

本年国体開催の丸善は声援によくこたえて、後半は捨て味のポストプレーに活路を見出した。これが功を奏し、随所にすべての技術を出したが、攻守に厚い選手層を誇るワクナガに対しては、これまでが精一杯のところであった。

丸善のベスト進出は国体時までの半年余りの精進が期待される出来であった。

大同製鋼 24（11—5，13—9）14 大山商会

【大同】	得		【大山】	得
柳川	0	GK	川原	0
倉谷	0			
戸谷	4	FP	中村	0
野田	5		奥川	4
藤中	3		前島	6
加藤	5		佐藤	1
西村	4		伊藤	2
伊藤	0		山口	1
山本	0		梅尾	0
小松	2		越智	0
松原	1		花谷	0
小沢	0			
24（3）		7MT		14

大同は守備がきわめて固く、大山は得意のポストプレーをはばまれた。また大同の帰陣もきわめて早いため、ここまで大山が勝ちあがってくる主戦武器であった速攻も思うにまかせず、苦戦する結果となった。

大同は4分の野田のシュートにはじまり、藤中がマンツウマンでマークされたが、戸谷、加藤、西村らが間隔を巧みについて、着々と加点した。大山は前島が良くがんばり、良く4点をたたきだしたが、前半は11—5と6点差。

後半大山の反撃が期待された。後半の大山は前半に比べると動きが良くなり、前島を援け、奥川、伊藤らが良く決めて、点差を一時はつめるかと思わせたが、55分をすぎてから大同のたたみかけるような攻撃を受け、点差がついてしまった。

大同雪じよくならず

▽決勝

ワクナガ薬品 17（7—7，10—7）14 大同製鋼

【ワガ】	得		【大同】	得
今井	0	GK	柳川	0
杉野	0		倉谷	0
市原	5	FP（審・奥村 鈴木）	戸谷	1
木野	2		野田	1
早川	2		藤中	8
森	2		加藤	1
高橋	3		西村	1
戸田	3		伊藤	0
松井	0		山本	0
藤井	0		小松	0
菅	0		松原	2
村中	0		小沢	0
17（1）		7MT		（3）14

国体時の雪じよくをホームコートにかける大同は意識しすぎてかミスシュートが多かった。これをワクナガは速攻に結びつけ、2点を先取。ワクナガペースで試合が進むかに思われたが、15分すぎかの藤中の3点を含む大同の猛攻で7—5と大同の2点のリード、これを28分すぎからワクナガが追い2点を連取して、7—7の振り出しにもどり、前半終る。

後半は大同の先攻で始ったが、ワクナガもすぐ追いつき、40分には12—10と2点差をつけた。

大同もこれを県命に追ったが、ワクナガも良く得点し、そのままの差を保ち続けた。

ワクナガは大同のGK柳川の好守にあって、なかなか得点できなかった。なかでも7MTを4本もとれなかったことは苦戦の因になっていた。

しかし、ワクナガの層の厚さが大同をうわまわった試合であったリーグ戦での両チームの健斗が期待される。

実連理事長は田中氏留任

日本実業団連盟は、トーナメントの時に会合を開き、田中実連理事長の留任ほかを決めた。他の人事については次号に詳報の予定。

本年度はベストセブン選出せず

本年度はナショナルチームが男女とも編成されつつあるので、ベストセブン選出は見合せることになった。

ハンドボール研修会報告Ⅰ

全日本教職員ハンドボール連盟　北川　勇喜
渡辺　慶寿

昨年埼玉県浦和市での教職員大会時にハンドボール研修会を荒川理長長を中心に行われましたが、今年より正式に教職員連盟としての研修会となりその第一回ハンドボール研修会の内容報告を致します。

昭和四十五年八月十三日、三重県四日市市体育館会議室で開催され、参加人員は約五十名、講師に昨年トレーニング概論を講演下さいました東京大学教授、広田公一先生、大阪体育大学助教授、石井喜八先生そしてハンドボールナショナルチーム監督の村田弘先生の三名に講演をお願い致しました。

研修会内容

一、挨拶　山田計

一、講演①ハンドボールの持久性について　広田公一

②世界選手権大会に参加して　村田　弘

③ハンドボールのキネシオロジー　石井喜八

まず冒頭の挨拶で教職員連盟山田計理事長は、スポーツの科学化も必要であるとして「昨年浦和ではじめた研修会をわが教職員連盟の中にとり入れられたことは大変意義がある。ハンドボールの指導者が、その科学的理論より実際の指導に役立せることはこの競技の確立化をさせるために大切なことであり、指導にあたってより個人の視野を広げるために、我々に欠けている。スポーツを科学する方法をとり入れることであり。その上に立って我々の経験と結びつけ指導することが、今後の姿であると考える。又これがハンドボールに携わる者の使命であると思う。その意味において日頃、直接指導に従事する者にとって今日、この様な会が行われることは意義深いものと信じている。」との旨述べられた。続いて講演に入り東京大学教授であり、ハンドボール協会医事担当の広田公一先生による講演となり、昨年の筋力トレーニングの概論的な講演から今年はハンドボールの持久性についての演題で講演され、いかに持久性を高めたらよいかという内容で約一時間にわたり話されたことはわれわれ研修会に参加した者にとって、その内容の豊富さに感銘をうけると共に指導面に多いに参考になった。

その詳細な内容については、集録されその編集が出来たので皆様に御紹介することにいたします。

その後、第七回世界選手権大会にわがナショナルチームを引きいて監督として参加された村田弘先生よりその報告と世界のハンドボールの現状及び日本チームの今後の有り方という内容で講演があり日本チームの現状のは握の中で、過去の日本チームと比較して、得・失点の上に立って向上のきざしと今後の強化として、防御面での技術体系及び体力的要因の増大が必要であり、又こまかなスキルについてはより日本的な特徴を強化する必要があるとし、多方面に亘り、分析されたことを講演下さいました。最後にハンドボールのオールドマンには、よく知られている。嘗て、ハンドボールの選手として数々の業績を上げ、現在では科学的理論面で多方面に活躍されている大阪体育大学助教授石井喜八先生より、ハンドボールのキネシオロジーの講演をされたことはハンドボール界において、意義深いものがあった。以下広田先生、石井先生の講演内容について編集致しましたので皆様の参考になればと思います。

尚、この研修会の目的は、昨年荒川協会理事長が述べられたごとくスポーツを単に経験主義的にとらえるのではなく、科学的理論と実際というものを常に両者一体化を目指さなければならないと述べられ、またこの会の冒頭で山田計教職員連盟理事長が述べられていることと一致しております。日頃ハンドボールについて研究されていることをこの会で発表し、問題提起をすることによって益々研修会が稔りあるものとして発展するものであり、また日頃現場指導での疑問、悩みを解決する場となることになると考えますので。この会の御意見等がありましたら是非お聞かせ願いたいと思います。ただ単に我々は知識のうけ入れをするのではなく、その知識をうまくうけ入れそれを消化することが大切であり、今回講演下さいました諸先生方に御指導をお願いし、ハンドボール界の驚異的な発展飛躍をとげるためにもこの会の今後の運営に御協力下さいます様お願い致します。最後に三名の講師の先生方に講演を心よくお引きうけ下さいましたことを感謝致します。又地元の中根理事長はじめ役員の皆様にお礼を申し上げます。

今回は石井喜八氏の講演内容をまず第一回として掲載し、次号に広田公一氏の講演内容を掲載することに致しますので御了承下さい参加できなかった方にも大いに参考になる内容だと思います。

（編集部）

ハンドボールのキネシオロジー

石井喜八

今日の私の話の主題は、ハンドボールのキネシオロジーについてということですが、このキネシオロジーという言葉の意味は、キネシというのは、〝運動〟といい、オロジーは、〝学問〟ということですから、体育の方では、身体運動学と訳しているわけです。

ところが、猪飼先生などは、生理学の中では、動作学などといっておりますが、結局、一般的に体育の分野では、キネシオロジーといっているわけです。

で、その内容は何かというと、いわゆる、競技団体で、競技力を高めるために、トレーニングをするわけです。しかし、スポーツの世界における競技力向上というのは、結局、勝つための能力を高めるということです。

勝つ能力は、体力と技術というものに代表されるわけですが、人によりましては、これにプラス意志力、即ち精神力も加えている人もいます。しかし、ニュートンがいうように、計れないものは科学ではないというわけです。したがって、意志力とか、根性というものはどうやって計るか、これは、我々が常に問題にしているところです。何故ならば、勝つ能力である、体力や技術の要素の向上には必然的にそれぞれに意志力が介入し、スポーツの世界では、常に精神力というのが話題になって来るわけです。

先程は体力の講演がありましたので、私は、技術の面から、お話ししたいと思います。

ハンドボール競技における、技術分析は、どうおこなわれて来たかというと、投の動作分析が多いようです。もっとも、この投げの研究は、体力測定にハンドボール投げが入っている関係上、広く研究が行われているわけです。

その中で一つは、ボールのスピードということが問題になります ハンドボールのボールのスピードは、力一杯投げても大体一秒間に二十五米のスピードです。では人間の走る能力をみますと、短距離のあの有名な飯島秀男選手のスピードで瞬間速度一秒間に十米を上まわります。これは勿論最高スピードでの比較です。しかし私達はハンドボールの速攻時でさえも一秒間に十米のスピードはでません 飯島選手が一秒間に十米以上のスピードがでるのは、スタートから三十米をすぎてからです。ハンドボールの競技の中で三十米をダッシュすることは比較的少ないわけです。速攻のときキーパーから直接ボールをもらってシュートする時でも両方のゴールエリアの距離を引いてしまえば三十米にも達しない。いわゆる人間のトップスピードで走る距離はないんじゃないかというわけで、要するに一秒間に十米位のスピードではないか、又投げの場合でもいつも全力を出して投げているわけではないでしょう、特にスローブレイクといいますか遅攻の場合にはこのことがいえます。

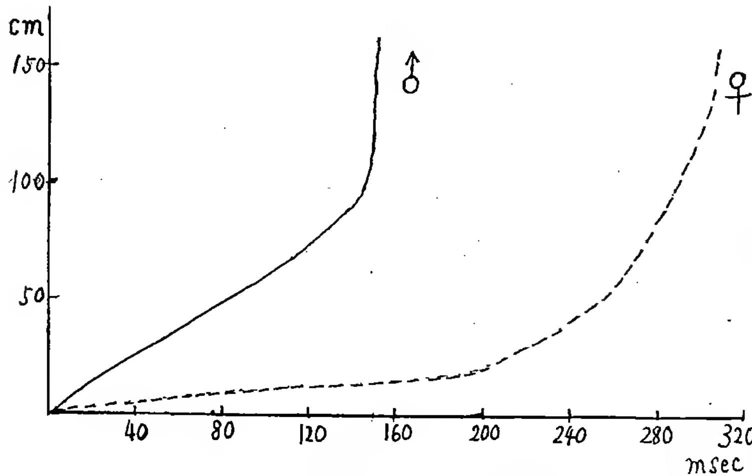
したがって投げる場合どの位の距離で持っている最大スピードの力をだせばシュートを決めることができるか、又は相手チームは、どのあたりからシュートをしてくるか、この範囲が防御の範囲にもなってくるわけです。このへんを早く見積る方法は何か、これ等は選手なりコーチが考えて欲しいところです。それともう一つは、筋力が関係してきます。筋力というのは、一般には一関節で計っているもので、動作の必須要素でありますが、全体的に筋肉を動かしていくにはどうしたらよいのかということになると動作の上では、筋電図をとってみるという方法があります。筋肉が収縮しますとそこからミリボルトという小さな電気が発生しこれを記録することが出来ます。多くの筋肉から一度に筋電図を誘導すれば筋肉はどんな順番に働くのかどんな強さで働いていたかが解るという研究が進められてきたのです。ところがただこれだけでは、ハンドボールの技術を説明することは問題があります

眼科の医師が書いている本で眼科全書というものがあります。それで調べてみますと、人間の見える範囲はどうなのかということです。一番はっきりみえる距離を近点といいます。又一番遠くの点が、はっきり見えるその距離を遠点といいます。両手の指を目の前に出してみて下さい。そして片目をつぶって一方の指をみながら片方の指をつぶった方向へ移動させます どの位の角度で見えなくなりますか、指が見えなくなってきた。その角度が解ります。約45度であるわけです。要するにこの場合両目をあきます前方90度の範囲が両眼ではっきりとわかる範囲であるわけです。では何故両方の目玉が必要であるのか、それは距離を判断するのに必要であるからです。すなわち遠近の距離をはっきりさせるためです片目でははっきり見える範囲が約四十五度でしたから両目で九十度ということになります。何故四十五度しか見えないかといいますと解剖学的に、目のほりだとか、まゆげの高さだとかというものが視野を狭くしているのです このような遠近を判断すること

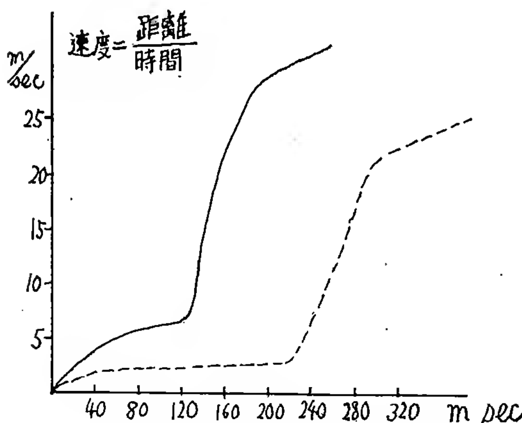
は球技では、一番重要な要素となるわけです。では今度は最高どの位の角度までみえるかといいますと、片目では約百十度といわれています。両方で二百二十度ということになります。これ等は白黒しか分りません。すなわち影のようなものとして見えるわけです。では次に興奮をした時の視野はどの位かということになるのですが、これについてはよく解りませんがスポーツを行う場合には相当高い興奮状態でありますので今後これについても研究を重ねるべきだと考えます。

では次に、私達が最近行いました研究の一部を紹介致します。投げの動作を十六ミリのフィルムで一秒間に六十四コマのスローモーションで写し、実際にボールを持った手がどの位いの距離を移動するか、又その所要時間はどの位いかかるかを調べました。（1図参照）縦軸に距離をとり、横軸に時間をとってみます。これからみますと大体ボールを移動させる距離は百五十センチ動かしていますそしてその所要時間は百六十ミリセック、即ち〇・一六秒位になります。かなり瞬間的です。これを微分してみます。微分するのは何故かといいますと、ここでは各瞬間の速度がどの位かということがわかるわけです。要するに速度というのは、時間当りの距離ということですから時間を距離で割ればよいのです。ボールを投げ、あるいは動作をする時に体幹の方の筋肉から動きだしてだんだんに加速して肩の筋肉が働き腕の順に力を入れているのだと一般的にキネシオロジーでは説明されておりますが私達のデーターでは、ある時間になると平衡の線がでてくる即ち一定の速度の場所がでてくるのですこれと同じような結果を得ている研究では東京工大から発表された砲丸投げの研究があります。

ボールがどの位、加速されているのか、要するにボールの速度が変っていくということは、そこで力を入れているということになります。ボールの重さと加速をかけあわせた時にそこに働く力が加わってくるということになります。加速度というのは、速度曲線をもう一度微分したということになります。微分するということは、最初に加速度の曲線がでてそれが消え零になるところがみられます。加速度が零という意味は等速動度運動をしているということになります。女子の場合は力を入れボールが動きだす時間が長いし等速度運動をしているところも長い、そしてその時の加速度は、毎秒八十メートル位です。小銃からとびだす玉が四〇〇メートル毎秒位ですこの加速度から力を計算してみますと、ボールに働いた力は男子ですと二十八瓩です指の屈力を一本一本調べてみますと十二から十三瓩であるといわれています。このようなことで分析をしてみますと解ることは、ボールの実際の移動距離がわかってくる。コーチがよく「モーションを小さくしろ」、「ボールのスピードを速く」、とかいろいろ要求しておりますが実際に動かしている距離はどの位であるのか、充分にモーションをしなければシュートが入らないのか又モーションを小さくすればゴールに入れることが出来るのか、ここらにも問題があります。それとボールを後方に引いてボールが手から離れる所要時間がどの位であるかが分りますから加速度と力との関係が解ってきます。それと、もう一つ最終速度のための脱力、即ち力を入れるためにはどうしても力を抜かなければいけないのかこれは髄意動作によって筋電図が一度消えるのだということを猪飼先生が研究をしております。この消える間隔は五〇ミリセックから一〇〇ミリセックの間といわれていますが私の研究では少し長くなっています。これはボールの重さが影響しているのかも知れませんが、筋電図が一度消えることは能力が発揮されていないことであるとすれば一致しております。要するにこのようなことが解ってきますと、例えば投げるという動作の中でもいろいろな視点をもってみ



1図　フイルム（16m64コマ/sec）による投げの分析



2図　フイルムによる投げの分析の微分

わけることが出来るし、その人の技術を判定する観点が出来るわけです。こんなことでハンドボールの競技をいろいろと分析してみるとかなりハンドボール理論が出来上ってくるであろうと考えます。

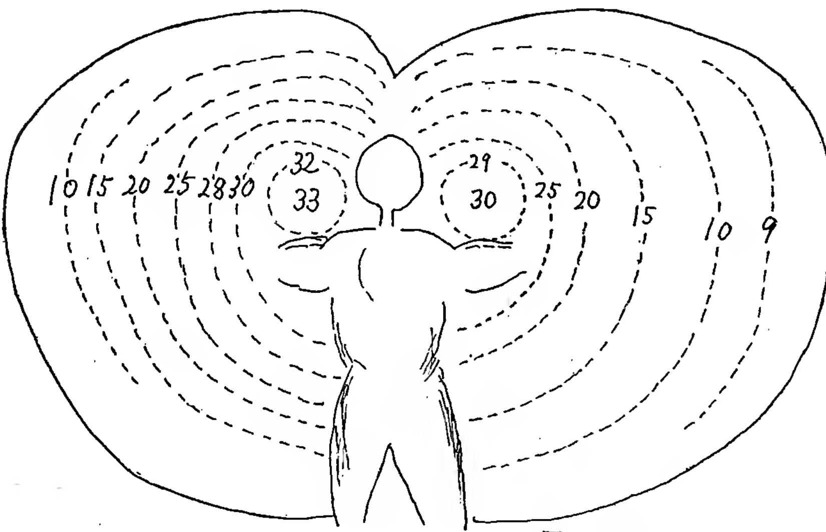
次に球技の動作範囲について話を進めてみます。この動作範囲というのは何かといいますと、先ず簡単に実験方法から申し上げます壁に大きな方眼紙をはり、女性がよく使います指抜きに短い鉛筆をつけ指先がどの範囲まで届くか、上肢を動して線をかくということで、その範囲を調べたものです。第一に腕だけ即ち上肢のみでの範囲、第二は背伸びをした時の到達範囲、第三は腰を補助者に固定させて上体を曲げた範囲、第四は両足を地上に固定させ手がとどくまでの範囲をそれぞれ十人の被検者により調べてみました。その平均値は第一の方法では一、九三平方メートル第二の場合は、二、〇七平方メートル、第三の膝を伸ばした状態ですと、三、〇〇平方メートル第四の腰をおとせの場合は、四、六三平方メートルと抜群に増えてくるのです。ではその増加率はどうかとみますと例えば第一の手だけとどいた範囲を一としますと第二の場合は〇、七倍第三は一、五六倍第四番目は、二、四倍にもなります。この場合はボール一つどころかかなり広い範囲になります。このような動作範囲は、バレーボール、バスケット、ハンドボール、サッカー等で使う動作範囲となります。サッカーの場合はキーパーということになりますところが一九六〇年東京オリンピックでバレーボールの大松監督が「足なんか床につけてなるものか」ということで回転レシーブを行わせました。このようなことになりますと今度は背伸びしたのではなく、垂直とびをしたらこの範囲はどのように変るか、あるいは横にとんだ時にはどの位いか即ち横へとぶということは重心を支持面の外におとすことになります。その重心の支持面から外にほうりだしたらどこまでとどくか、その時の範囲はどの位なのかということが問題となって来ます。又背の高い人は指極両腕を横にあげたときの指先から指先までの長さの範囲が長いそうしますと防禦率が高いということが、一般的に考えられていますが、これがどの位の範囲かということが、このような実験から測定することが可能であると思います。

次に手がとどく範囲内での筋力はどの位いであるかをこれを関連して調べてみました（3図参照）後方から前方に引く筋力、懸引力を測定してます。そうしますと肩の上のところが大きい力を出すことが解りました。だんだん遠くに行くにしたがって筋力の発揮が小さくなってきます、又当然のことだと思いますが右ききの場合右側の筋力が大きく左側が小さいことも解ります。

これ等のことから、ボールを投げる時に肩からボールを出すことが一番効率がよいことであるということが解り、従って筋力の多いところからボールを出すことは速度を増すということで望ましいということになりますが、投球フォームというものは一定のものであってはならないことは勿論でありますのでここにも一つ問題があると思います。

では最後にこの技術についてまとめてみます。東大の猪飼教授は技術について次のようにいっています。一つは力の調整、これはボールを力一杯投げるかあるいは、ぽっと力を抜いてボールをおとすこのようにいろいろとボールの投げ方があります。どの位の力を入れることによって相手を惑すことができるかということになります第二は時間をどのようにコントロールするかというするかという。タイミングをあげることができます。それとここでもう一つつけ加えておくことは空間の調整です。空間の調整とは出来るだけいろいろなところからボールを出すことに結びつきますこれまでは時間のことについてはふれませんでしたが、力の調整の一つの手段として投げを分析し、もう一つは空間 Spacing ということ。われわれの指先はどの位までの範囲とどくのかを求めることが出来るということ。このような主がハンドボールの理論の基礎になるのではないかということが実験結果から話を進めてまいりました。

以上で私の話しを終らせていただきます。



3図　後方から前方への等懸引力線図

オリンピック出場への檄文

興隆か衰退か？

危ういかな日本ハンドボール

昭和四十六年一月七日（大阪ハンドボール協会理事）
光　島　磯　雄

一九七一年の十一月にはすでにミュンヘンオリンピックのアジア代表が決っているのかと思うとそぞろに薄氷を踏む不安の念にかられるのは私だけであろうか。

東洋でもっとも早くハンドボールを手がけたということが今までの日本の一つの気持の支え（自負心）であった。このことが逆に慢心とか油断となって心の底にひそんではいないであろうか。今迄日本は戦後二十五年の平和な時を送れたため独走的発展をとげて来たと誤信してはいないか。決してメジャースポーツではない我が日本のハンドボールにとって千載一遇の機会ともいうべきオリンピック予選にバラ色の開花を迎えることができるのかどうか。最精鋭を網羅した全日本ナショナルは大丈夫なのか。一般外野席のファンにとってもそれは手に汗を握る問題なのである。

最近の例をあげてみても、日本と韓国との交流において最初の数回はのぞいても日本は常におくれをとっていることをあげることができるのである。

韓国おそるべしの念を日本ハンドボールが明確に意識したのはここの二、三年の間のことであるが、彼等の持つ特長もしくは日本のハンドボールにないものを探求するという観察を拙筆であるがのべてみたい。諸大家の御叱正をおねがいする。

◎地理的歴史的特質について

地理的条件から観察をはじめるならば、東洋における大陸突端部としての様態が韓国の現状を支配する最大の特徴であり、これまでの多くの歴史的な出来事を通じて我々島国の日本人とは明らかに異なる性格を形成していることにまず注目しなければならない。歴史的についてみても、古くは漢唐、少しくだっては元、明、清代における朝鮮半島の立場はどんなものであったか。かつては日本に大陸文明を伝えてくれた恩師又は先輩的存在であった韓民族との関係がこの最近代の百年間にどのように変質させられたのか。日本の支配それに続く彼等の過去二十五年間における新たな苦悩すなわち国土の分断とその対立ということについて我々はどのように理解しているのか。歴史の皮肉とも感じられる地理的条件が彼等をして東洋の火薬庫的存在を自覚せしめていると断定しても過言ではあるまい。長い間の他民族他国家の支配から脱したとはいえ現在の状況は同じ自由主義陣営の中でも特異な存在と認めざるをえないのである。

◎気候風土の特質と民族性

方向転じて気候の面から考えるなら、この国は大陸性気候の影響をうけることが多く、寒暑の差が大きく、南北にわけて考えればモンスーン気候の高温多湿の比較的温和な特質により南韓側は農耕水田に適した条件を有するに対し北韓側は山地が多く寒気がきびしく、日本統治時代から工業化が推進されていたことをもってもうなづけるのである。気候を問題にしたのは、一般的に考えても気候風土が民族性におよぼす影響は非常に大きなものがあり、特に寒冷地にうまれ育つ民族は時としては強力なる特性を発揮することが多いという事実からである。日本においても旧軍隊における東北、北海道方面の出身者の評判は必ずしも悪いものではなかったし、ロシヤがナポレオンに勝ち、ヒトラーに勝ったこと、あるいは二十年前中共軍が朝鮮半島でアメリカ軍をあわやという所まで押しまくったことなど多くの共通した事実を見出すことが出来るのである。旧日本軍隊の中核が農村出身者で占められていたことは、その当時の封建性と前近代的環境に育った人間を必要としたからでもある。このことを現在の韓国にあてはめることは出来ないが少くとも暑熱又は温暖の地に育つ人間よりも、寒冷又は開発途上にある地に育つ人間の方が緊急非常の際には特に粘り強さにおいてはるかにすぐれたものを持つと断判してもまちがいではないと言えるのである。物質文明の先行によるみせかけの繁栄を謳歌することに追い立てられている多くの日本人にくらべればこれまたおのずと明らかであろう。

◎現在の韓国のおかれた環境からみて

このように、地理的条件から他民族、他国家の干渉支配をうけることの多かった歴史により現在韓国は独立、自尊の気風が強烈であり、しかも二十年前におこりなおかつ現在も南北間の不幸な対立となっている問題にしても、その緊張は我々日本人には想像もつかぬほどはるかに深刻かつ冷厳なものとなっていることを知らねばならない。男子は成年に達すれば兵役の義務につき国土防衛の企にあたり反共の第一線に立つの心構えが普通であり常に二十年前の戦乱の

経験を忘れるべからざるものとして考えているのである。このため国内事情はすべて反共に結集し、すべてはそのためにあるとする民族的バックボーン（信念）が確立しているのだ。したがってスポーツも例外ではありえない。何のためにスポーツをするかについても明確かつ強力な目標が設定され、他国（特に日本）に敗けるな追い越せの闘志によりすでに日本のいくつかのスポーツ種目は全く歯が立たない現状となってあわれているのだ。我が日本ハンドボールがこの憂目を見ることはないと誰が断言出来るであろうか。すでに大学、高校、そして昨年末の一般男子も苦杯をなめざるをえぬ破目に立ちいたっていることに大いに注目すべきである。しかも試合の内容からみても彼等の戦法、戦術は非常に拓ぬけしており、日本が今迄再三ヨーロッパがよいをしても得られなかった種類のプレーをもゆうゆうとたくみにやってのけるところにこれまた底知れぬ無気味さを感ぜざるをえぬ。悪い言い方であるが日本は今迄相当以上の無理をして金をつくりせっせとヨーロッパがよいをした成果が、それをしなかった韓国におよばないということの根本の理由は一体何なのであろうか。あたかも日本がGNP世界第二位だとか、今に米国を追い越すだろうとか、経済大国とかいわれて経済成長の優越を自負する反面、開発途上の国々からエコノミックアニマルなどという軽べつの言葉をあびせかけられている現状と関連して考えてもうなづけることである。もっと簡単に表現するならば、要するに金だけでは勝てぬ要素を日韓のどちらが多くもっているかと問いたいのである。

◎情報収集の面からみて

古書にいわく「敵を知りおのれを知らば百戦あやうからず」とあるが、はたして日本は十一月の対戦国である韓国イスラエル両国について知るべきことを知る策をたてているのであろうか。このままでは相手のことは全く知ることなくしてオリンピック予選にのぞむことになりはせぬかの危具の念を抱かせられる。

国情、政情の相違からしても日本のハンドボールに関して韓国はすみからすみまで知りたい放題、自由自在に取材することが可能であるに反し、日本は韓国イスラエルに対してその自由にとぼしい状況を如何に克服するのか？古来情報不足で大局を失った例は考えるだけでも馬鹿々々しい。この方面の開拓も是非重大な関心と熱意をもって検討してもらいたいものである。たとえて一例をあげるならば、有力者を仲介として外交筋や民間商社の駐在員などをわずらわし資料を集めるとか、視察員を派遣するとか決して不可能ではないはずである。決して絶対にこの近い国を遠い国のままで放置してはならないのだ。

おそらく九月の対スウェーデン親善試合には韓国イスラエル両国とも必ずやあらゆる手段を、人員を動員して全日本チームの威力視察には全力を尽くすであろうことを思うと冷や汗すら流れる。

韓国はすでに「国家代表チーム」を兵営に入れて合宿を積んでいると聞く。ドイツ人コーチを招いて研讃していると聞く。今迄に見聞した韓国選手の体力、体格、技術、ボールセンス、闘争心の強烈さなどからしても十一月の試合は予断を許さぬ日本ハンドボール史上最大の激烈なゲームとなることは必至である。

◎尋常の覚悟では勝てない。ふんどしをしめなおしてかかれ！

全日本ナショナルチームは私どもの考えるより数段の高所大局に立って選抜され練習に精励しておられることであろうが、ミュンヘンオリンピックに何位をめざすなど考えるなかれ、敵はヨーロッパではない、強敵は眼下に、眼前にいる。それもジェット機で3時間のところに！　心してかからねば十一月〇日には日本ハンドボール界あげて悲歎の涙にくれ忙然自失となる。しかも永久に韓国イスラエルに頭があがらなくなるということを良く嚙みしめていただきたい。

固くなってはいけない、余分な愛国心でコチコチになっては困るという人もあろうがこの際はそれを返上させていただき、全力を尽くした後敗れるならば悔いはないなどという文句は辞書にないものと思い、日本ハンドボールの興亡を双肩に担った心算で一層の奮励努力を期待してペンをおくことにする。

日本ハンドボール協会幹部各位殿

全日本ナショナルチーム各位殿

ナショナル選手は第三次以降国内試合不出場

オリンピック予選をめざす、全日本チームでは、ナショナル選手を第3次合宿（8月中旬）から、アジア予選終了まで、国内試合に出場させないことを予定しているが、最終決定はアジア予選の日程が正式決定したのちになされる。

この間、合宿が数多く予定されているので、ほとんど事実上チームに帰っての練習、試合はムリな状況である。

ナショナルチームの記録①
～公式国際試合を整理する～

杉山茂

去年の春、世界選手権（男子第6回7人制）を控えたフランスのスポーツ新聞関係者から日本のナショナルチームやプレイヤーの公式記録を教えて欲しいといわれ困った。

日本協会にはそうした資料が完全に整備されていない。そこへいくと外国の協会はさすがによく整理されている。

ちなみにナショナルチームの公式記録とは、相手も一国のナショナルチームに限られる。厳密にはその試合が国際ハンドボール連盟（IHF）へ届け出られていることが望ましい。

○……○

今回はチーム記録をまとめてみた。総試合数は男子38、女子15（以上7人制）、11人制男子3の計56試合である。

ハンドボールの祖国を自認するデンマークの国際試合総数（一九三五～一九七〇）は実に520。対スウェーデン（男・7人制）だけで78試合という数字をみても伝統の差、地理的環境の相異を痛感させられる。＝「デンマーク・ハンドボール記録集70～71年版」による＝

日本の対戦相手を国別にみると男17、女8ケ国。このうちアジア地域の国との交流はわずかに男子のイスラエルと中共だけ。

もっとも近い韓国ナショナルと一戦も交えていないのは不思議な感じを抱かせる。

数字の上から結びつきが濃いのは西ドイツの9試合（男2、女5 11人制2）ということになる。

ちなみに西ドイツとはナショナル・マッチ以外にも59試合（男43女16）の交流が行われている。

勝率（7人制）は男子が37%、女子が20%。ナショナル・マッチで勝率50%を越すのは東ドイツ、ルーマニア、チェコ、ソビエトぐらいではないかといわれており日本（男）の成績はそう悲観すべきものでもないが、要は〝内容〟である。

対戦記録のうちで興味深いのはルーマニア、中共、チェコ、ソビエトから1度も勝利をあげていないことだろう。

ナショナル・マッチのうち世界選手権での成績は男子が14戦5勝8敗1分、女子が10戦1勝9敗。

11人制については、すでに日本では〝過去のもの〟だが、西ドイツを招いての2戦はあらゆる面で日本球界のエポックであった。

なお、昭和42年9月に来日した西ドイツ選抜と全日本は男女各1試合づつ対戦しているが、来日チームはナショナルB的なランクにあったため本稿ではこの2試合を加えていない。

また、36年3月13日西ドイツで全日本男子がデンマークナショナルと対戦、21－22で敗れたという資料が手元にあるが、「遠征報告書」（36年7月芝浦工大編）にも、デンマーク協会側にもこの試合は記載されていない。単なる練習試合だったのだろうか。

次の機会にはナショナルプレイヤー（男女）の個人記録をまとめるつもりである。各位の御助言を賜りたい。

男子（7人制）

	試	勝	負	分
イスラエル	4	2	1	1
ハンガリー	4	2	1	1
ルーマニア	4	0	4	0
中　共	4	0	4	0
チエコ	3	0	3	0
ソビエト	3	0	3	0
ノルウエー	2	2	0	0
オランダ	2	2	0	0
ユーゴ	2	1	0	1
フランス	2	1	1	0
西ドイツ	2	0	2	0
アメリカ	1	1	0	0
アイスランド	1	1	0	0
イタリア	1	1	0	0
スペイン	1	0	1	0
フインランド	1	0	1	0
アラブ連合	1	0	1	0
	38	13	22	3

女子（7人制）

	試	勝	負	分
西ドイツ	5	1	4	0
ポーランド	2	1	1	0
デンマーク	2	0	2	0
チエコ	2	0	2	0
フランス	1	1	0	0
ルーマニア	1	0	1	0
ハンガリー	1	0	1	0
ユーゴ	1	0	1	0
	15	3	12	0

男子（11人制）

	試	勝	負	分
西ドイツ	2	0	2	0
イスラエル	1	1	0	0

公式国際試合記録（7人制）

①昭36・3・1（カールスルーエ）＝第4回世界7人制選手権予選リーグC組
チェコ 38（23－5 15－5）10 日本

②昭33・3・2（ハスロッホ）＝第4回世界7人制選手権予選リーグC組
ルーマニア 29（15－4 14－7）11 日本

③昭39・3・1（エブリュー）
フランス 27（13－7 14－6）13 日本

④昭39・3・4（プラハ）
チェコ 40（21－1 19－6）7 日本

⑤昭39・3・6（パルドビッチ）＝第5回世界7人制選手権予選リーグD組
日本 18（9－10 9－4）14 ノルウエー

⑥昭39・3・7（パルドビッチ）＝第5回世界7人制選手権予選リーグD組
ソビエト 40（17－4 23－6）10 日本

⑦昭39・3・9（パルドビッチ）＝第5回世界7人制選手権予選リーグD組
ルーマニア 36（20－5 16－7）12 日本

⑧昭39・3・13（プラハ）
アラブ連合 23（11－10 12－5）15 日本

⑨昭39・3・21（テルアビブ）
日本 20（8－7 12－9）16 イスラエル

⑩昭39・3・23（レホボット）
イスラエル 13（8－4 5－5）11 日本

⑪昭40・4・21（広州）
中共 26（13－8 13－6）14 日本

⑫昭40・4・25（上海）
中共 26（13－7 13－7）14 日本

⑬昭40・5・2（北京）
中共 22（12－7 10－9）16 日本

⑭昭41・10・3（駒沢屋内球技場）
中共 18（8 10／7 10）17 日本

⑮昭42・1・3（フロレスカ）
ルーマニア 34（19 15／5 4）9 日本

⑯昭42・1・8（ヘルシンキ）
フィンランド 34（17 17／11 18）29 日本

⑰昭42・1・12（キルナ）＝第6回世界7人制選手権予選リーグB組
ハンガリー 30（16 14／13 12）25 日本

⑱昭42・1・13（キルナ）＝第6回世界7人制選手権予選リーグB組
西ドイツ 38（21 17／15 12）27 日本

⑲昭42・1・15（ルーレオ）＝第6回世界7人制選手権予選リーグB組
日本 21（10 11／9 7）16 ノルウェー

⑳昭42・1・25（マドリッド）
スペイン 27（10 17／13 8）21 日本

㉑昭44・6・20（ブタペスト）
日本 24（10 14／10 13）23 ハンガリー

㉒昭44・6・21（ブタペスト）
ハンガリー 31（18 13／12 8）20 日本

㉓昭44・6・27（ザビドビッチ）＝第9回タシマイダン・カップ
ソビエト 30（15 15／5 8）13 日本

㉔昭44・6・28（ザビドビッチ）＝第9回タシマイダン・カップ
日本 19（6 13／10 8）18 ユーゴ

㉕昭44・6・29（ザビドビッチ）＝第9回タシマイダン・カップ
ルーマニア 15（6 9／4 8）12 日本

㉖昭44・7・2（タシマイダン）＝第9回タシマイダン・カップ
日本 21（12 9／10 11）21 ハンガリー
引き分け

㉗昭44・7・9（キール）
西ドイツ 24（14 10／9 7）16 日本

㉘昭45・2・26（バイヨンヌ）＝第7回世界7人制選手権予選リーグB組
チェコ 19（11 8／7 7）9 日本

㉙昭45・2・28（アジエン）＝第7回世界7人制選手権予選リーグB組
日本 17（9 8／7 10）17 ユーゴ
引き分け

㉚昭45・3・1（ツールーズ）＝第7回世界7人制選手権予選リーグB組
日本 21（11 10／8 7）15 アメリカ

㉛昭45・3・3（パリ）＝第7回世界7人制選手権9位決定リーグ
日本 20（8 12／10 9）19 アイスランド

㉜昭45・3・4（パリ）＝第7回世界7人制選手権9位決定リーグ
日本 22（9 13／6 7）13 フランス

㉝昭45・3・6（パリ）＝第7回世界7人制選手権9位決定リーグ
ソビエト 27（16 11／6 6）12 日本

㉞昭45・3・10（ヘーレン）
日本 18（6 12／11 6）17 オランダ

㉟昭45・3・12（ヒルバーサム）
日本 23（12 11／6 9）15 オランダ

㊱昭45・3・14（ローマ）
日本 33（14 19／8 5）13 イタリア

㊲昭45・3・16（テルアビブ）
日本 10（5 5／3 7）10 イスラエル
引き分け

㊳昭45・3・18（セタル・ジョサ）
日本 17（13 4／2 4）6 イスラエル

女子公式国際試合記録

①昭37・6・24（ハノーバー）
西ドイツ 12（10 2／1 3）4 日本

②昭37・6・26（ブッパタール）
西ドイツ 13（6 7／5 2）7 日本

③昭37・7・4（ブカレスト）
ルーマニア 26（13 13／2 1）3 日本

④昭37・7・7（ブラショフ）＝第2回世界女子7人制選手権第1次リーグB組
ハンガリー 17（6 11／3 5）8 日本

⑤昭37・7・9（シビウ）＝第2回世界女子7人制選手権第1次リーグB組
デンマーク 12（5 7／3 4）7 日本

⑥昭37・7・11（プロエスチィ）＝第2回世界女子7人制選手権7位決定リーグ
ポーランド 16（9 7／5 5）10 日本

⑦昭37・7・12（プロエスチィ）＝第2回世界女子7人制選手権7位決定リーグ
西ドイツ 15（8 7／5 1）6 日本

⑧昭40・10・24（プラハ）＝第3回世界女子7人制選手権第1ラウンド
チェコ 17（8 9／4 4）8 日本

⑨昭40・10・23（プラハ）＝第3回世界女子7人制選手権第1ラウンド
チェコ 17（10 7／4 1）5 日本

⑩昭40・11・7（西ベルリン）＝第3回世界女子7人制選手権準決勝リーグA組
西ドイツ 15（7 8／6 1）7 日本

⑪昭40・11・9（ハノーバー）＝第3回世界女子7人制選手権準決勝リーグA組
デンマーク 10（5 5／5 4）9 日本

⑫昭40・11・11（ポツダム）＝第3回世界女子7人制選手権準決勝リーグA組
ユーゴ 9（4 5／2 3）5 日本

⑬昭40・11・13（ドルトムント）＝第3回世界女子7人制選手権7位決定戦
日本 6（2 4／4 1）5 ポーランド

⑭昭40・11・14（ブッパタール）
日本 12（6 6／4 4）8 西ドイツ

⑮昭40・11・20（パリ）
日本 17（6 11／5 8）13 フランス

参考

▼全日本学生選抜軍欧州遠征（昭37・12〜昭38・1）

●17—23 西ドイツ（親善）
○11—7 スイス（親善）
●15—23 スウェーデン
●11—34 デンマーク（第1回世界学生）
●9—31 スペイン

公式国際試合記録（11人制）

①昭31・9・23（大阪球場）
西ドイツ 27（15 12／9 7）16 日本

②昭31・9・30（後楽園競輪場）
西ドイツ 28（—／—）12 日本

③昭33・4・4（テルアビブ）
日本 16（8 8／6 9）15 イスラエル



底辺の拡大を目ざして
～名古屋の年少対策報告～

年少層への普及に積極的な姿勢をとりつづける愛知協会は、今年度は新たに「小学生ハンドボール教室」を開設、成果をあげた。

愛知協会・林正信氏から報告が寄せられたので御紹介しよう。（カット写真は名古屋市小学校指導会から）

小学生ハンドボール教室

全国でも初の試みとして注目されていた愛知協会主催「第1回小学生ハンドボール教室」は昨冬12月13日に無事初年度の全日程を終了した。

教室は前期・後期合わせて20回の練習会を開いたが、応募した児童は前期117名、後期78名となかなかの盛況だった。

対象は小学校3年生から6年生までの男女児にハンドボールを教えることは骨のおれる問題も多くあったが、全員がハンドボールに興味をもち、特にゲームを好む傾向を示した。

また、この教室に参加した児童のほとんどがドリブル走、ドッジボールによる遠投力などの記録が伸び、ハンドボールの児童体育に与える効果がはっきりあらわれたのは注目してよいだろう。

教室終了後、参加者から募った作文で、全員が『将来、立派なハンドボール選手になりたい』と書いていたことは、私たち関係者に力強いものを感じさせた。

第1回の試みであったので運営面でいくつかの課題が残った。指導者の不足、講師への手当ても謝礼どころか交通費さえ充分に払えなかったことなどの問題も深刻である。

しかし、明かるくはずんだ子供たちの姿は、我々に苦境をのりこえる最大のはげましにもなっていたし、ブラザー工業が終始好意的にコートを提供して下さったのも有りがたかった。

こうした事業の成否は「指導・施設・プログラム（指導内容）」の三点がいかにととのえられるかにかかるといわれるが施設面だけでも苦労がはぶかれたのは同社のおかげである。この場をかりて厚くお礼を申しあげたい。

昭和47年度からの「中学校新指導要領」にハンドボールは選択教材として採り入れられることになっているが、さらに「小学校体育教材」として採択されるよう関係者各位の働きかけを強く望むものである。

20周年迎えた名古屋市小学校大会

昭和26年から行われている名古屋市小学校ハンドボール指導会は今年20回目をむかえ昨年12月名古屋市立笹島中・同前津中校庭に男子18チーム、女子14チームが参加して開かれた。女子は昨年に比べ一挙に5チーム＝五校も増え、技術的にも向上のあとが著しかった。

上位戦は、観戦の関係者からも「中学生顔負けだ」という声が出るほどでジャンプシュート、フリースローラインからのロングシュートはもちろんポストプレー、ブロックプレーを展開するチームもあった。

こうした努力が斯界全般の発展につながっていくのはまぎれもない事実で、愛知県下の中学球界が全国一と自負できるのも〝底辺の情熱〟に大きな原因がある。

名古屋市一市だけでも11月の中学新人大会には男子18、女子12校が出場しているのだ。

小学校球界の健全な発展は斯界あげての課題でもあるだろう。

20年の球史を刻んだこの大会も今年は各校の実力が接近、各試合とも白熱して、コートサイドを埋めた父兄、先生、級友たちの声援がたえまなく響いていた。結局、女子では瀬古小学校が初優勝、男子は汐路小学校が堂々の連勝を飾った。

▼主な成績男子▽準決勝

汐路 8―6 中川

柳 5―4 瀬古

▽同決勝

汐路 4（2―2、2―1）3 柳

▽女子準決勝

瀬古 9―3 中村

千鳥 11―8 汐路

▽同決勝

瀬古 5（2―1、3―1）2 千鳥

☆ ☆ ☆

☆ ☆ ☆

★☆★☆★☆★☆★

海外トピックス

杉山　茂
藤本　強

ノルウエー、デンマークをおさえる　西欧女子国際

今月はまず女子の動向からお伝えしよう。

これまで女子の活動が盛んではなかった北欧地域で珍しくビッグトーナメントが行われた。「北欧5カ国対抗」と銘打たれ、伝統のあるデンマーク有利とみられたがフタをあけてみるとノルウエーが秀れた攻撃力で快勝をつづけ、最終戦でデンマークを接戦の末破って優勝した。他の試合は力の優劣がはっきりしすぎ大差が多かった

ノルウエー13－3スウエーデン
ノルウエー22－2フィンランド
デンマーク12－11アイスランド
デンマーク13－7スウエーデン
スウエーデン16－6フィンランド
ノルウエー15－4アイスランド
スウエーデン10－9アイスランド
デンマーク24－6フィンランド
アイスランド19－4フィンランド
ノルウエー8－7デンマーク

【順位】①ノルウエー②デンマーク③スウエーデン④アイスランド⑤フィンランド

ユーゴが優勝　トビリシ国際

ソビエト球界のメエインエベント・トビリシ国際リーグは12月トビリシ市に8チームが参加して行われユーゴが優勝した。

この大会には当初東ドイツやルーマニアも出場する予定で、賑やかな顔ぶれになると期待されたが西ドイツの参加を聞いて東ドイツルーマニアが辞退〝政治のカベ〟をチラリとのぞかせた。

▽予選リーグA組

ソビエト　19－15　西ドイツ
西ドイツ　20－13　アイスランド
ユーゴ　19－12　ソビエト
西ドイツ　19－15　ユーゴ
ソビエト　32－17　アイスランド
ユーゴ　記録不明アイスランド

▽同B組

チェコ新人　18（分）18　ウクライナ
ソビエト新人　27－16　チェコ新人
ソビエト新人　27－12　ウクライナ
ゲオルジイ　24－12　チェコ新人
ウクライナ　17－16　ゲオルジイ
ゲオルジイ記録不明ソビエト新人

▽7位決定戦

アイスランド　18－17　チェコ新人

▽5位決定戦

ウクライナ　22－10　ソビエト

▽3位決定戦

西ドイツ　21（10－11、11－8）19　ソビエト新人

▽決勝

ユーゴ　29（15－6、14－12）18　ゲオルジイ

「IHFカレンダー」発表

国際ハンドボール連盟（IHF）ではかねてから1～2年を単位とした行事日程表の編成を希望していたが、このほど各国の報道関係者に「71年度行事表」を発表した

この行事表には今年1月から来年8月のミュンヘンオリンピックまでが記され、将来はIHF内にカレンダー・コミティ（行事委員会）をつくることになるようだ。

主な国際大会は次のとおり

【1971年】▼1月　ヨーロッパカップ男女準々決勝▼2月　同準決勝▼3月　同決勝▽デンマーク国際大会（19～21日）▼4月　第4回世界学生選手権（チェコ・3～11日）▽ラテン・カップ（モロッコ4～8日）▽イタリア国際大会（ローマ、16～19日）▼6月　タスマジャン・カップ（ユーゴ29～7月4日）、ザグレブ・カップ（ユーゴ）▼9月　バルティック・カップ（デンマーク、29～10月2日）レバノン・カップ（ペイルート、3～7日）、ハンガリー国際大会（3～5日）▼10月　ヨーロッパカップ男女第1ラウンド▼11月　カルパティ・カップ（ルーマニア、10～14日）▽スウエーデン国際大会（ヨテボリ、22～29日）▼12月　第4回世界女子選手権（オランダ9～20日）、トビリシトーナメント（4～10日）、ペルリン国際大会（11～19日）、オランダ国際大会（26～30日）

【1972年】▼3月　ミュンヘン・オリンピックヨーロッパ予選会～プレ・オリンピックトーナメント～（スペイン）▽ルーマニア・カップ（1～5日）▼6月　バルティック・カップ（ソビエト）

東ドイツ抜群の強さ　女子カルパティア杯

女子のカルパティア杯は7カ国8チームの参加で開かれ、A・B二グループに分かれ予選ラウンドを行ない、両グループの1・2・3・4位同士によって、1・3・5・7位決定戦を行なった結果、Aグループ1位のルーマニアを降し、Bグループ1位の東ドイツが優勝をとげた。

Aグループ

ソ連　11（8－6、3－5）11　ハンガリー
ルーマニアA　16（8－4、8－1）5　ポーランド
ソ連　17（8－8、9－2）10　ポーランド
ルーマニアA　13（8－6、5－5）11　ハンガリー
ハンガリー　17（7－2、10－4）6　ポーランド
ルーマニア　15（10－9、5－2）11　ソ連

①ルーマニア3勝②ハンガリー1勝1敗1分（得39失30）③ソ連1勝1敗1分（得39失36）④ポーランド3敗

Bグループ

東ドイツ　19（9－5、10－4）9　ルーマニアB
チェコ　13（9－7、4－5）12　ユーゴー
ユーゴー　10（6－6、4－2）8　ルーマニアB
東ドイツ　20（10－4、10－6）10　チェコ
チェコ　12（5－4、7－4）8　ルーマニアB
東ドイツ　11（7－6、4－3）9　ユーゴー

①東ドイツ3勝②チェコ2勝1敗③ユーゴー1勝2敗④ルーマニアB3敗

▽7位決定戦

ルーマニアB　9（4－2、5－2）4　ポーランド

▽5位決定戦

ソ連　17（10－6、7－4）10　ユーゴー

▽3位決定戦

ハンガリー　10（7－5、3－2）7　チェコ

▽優勝決定戦

東ドイツ　13（8－6、5－4）10　ルーマニアA

東ドイツ球界の近況

昨春の世界選手権で惜しくも優勝を逸したとはいえ東ドイツへの評価は今シーズンに入っていっそ

う高まっているようだ。

ワールドチャンピオンルーマニアを昨年くれ連破（本誌既報）、実力ナンバーワンという声がヨーロッパの各地で聞かれる。

今年に入ってからもデンマークを20－18、19－16と遠征試合で負かしており、ミュンヘンオリンピックまで着実にその強化策を進めていくことだろう。

主力は相変らずの活躍を示すジンマーマンを筆頭にゲルフォファー、ロスト、ラッケンマッハ、ローズ、フラッケ、ゾールナク、ハイルデブランド、GKフリエスクなどである。

ナショナルチームの好調は、国内にも充分に反映しており活気がみなぎっている。

「スポーツ・エコー」紙をはじめ報道関係も連日大きなスペースをハンドボールのためにさき人気をあおっているのは羨しい。

一部リーグ（全国リーグ）は精鋭10チームで争われているが、名門SC、ディナモ・ベルリンと新進ASK・フランクフルトが激しい首位争いを演じている。

ベルリンの主力はジンマーマンとロスト、フランクフルトはローズの他にはこれといった選手はいないがよくまとまっている。

前年優勝のSC・マグデバーグはフラッケが中心で、ヨーロッパカップは順当に勝ち進んでいるものの国内リーグではもうひとつパッとせず5位に甘んじている。

ファンの関心を高めている得点王争いは、下位チームウイスマットにあって健斗のスタインバッハが早くも100点台（16試合）をマーク、カーツ（プレムニッツ）、ロスト、フラッケ、ガンショウ（SC・エムポールロストク）らをおさえている。

一方女子も今冬の世界選手権で優勝候補の最有望にあげられており、男子同様10チームによる国内リーグは激戦が展開されている。

ナショナルプレヤーを揃えたSC・エムポール・ロストクとSC・ライプチッヒがともに1敗を守って後半戦へ突入しており、このツバぜりあいは最後までつづきそうである。

ユーゴが優勝

国際女子大会

4ケ国によるユーゴ国際女子トーナメントは1月20日から開かれユーゴがクネセビク、ラダコビクラデイクらの活躍でチェコ、デンマーク、西ドイツをおさえて優勝した。

ユーゴ 13（8－3、5－4）7 西ドイツ
チェコ 13（6－6、7－5）11 デンマーク
ユーゴ 9（3－4、6－4）8 チェコ
デンマーク 9（6－3、3－5）8 西ドイツ
ユーゴ 7（3－3、4－4）7 デンマーク 引きわけ
チェコ 11（7－4、4－5）9 西ドイツ

グンメルスバッハ勝ち進む

～ヨーロッパカップ～

昨年内にベストエイトの決まった今シーズンの男女ヨーロッパカップは1月末から準々決勝が始められた。

男子ではVfL・グンメルスバッハ（西独）がグラノーラス（スペイン）の健斗に会いながらも順当勝ち、SC・マグデバーク（東独）も好調を示している。

女子ではテイミソアラ大学（ルーマニア）が、HG・コペンハーゲン（デンマーク）をホームゲームで降し学生チーム初の準決勝進出成るかと注目されたが、第2戦でタイに追いつかれ、しかも抽せん負けの不運となった。

なお、男子で名門デュクラ・プラハ（チェコ）が2回戦（対リスボン）戦を棄権したことについて同チームのケーニッヒコーチは記者の質問に対し『ポルトガルとのスポーツ交流を当分見合せるというチェコスポーツ文化委員会の決定にしたがったまでのことだ。これはハンドボールだけの問題ではない』と語った。

男子準々決勝第1戦

ヘラス・ストックホルム（スウェーデン） 12（7－4、5－7）11 ステアウア・ブカレスト（ルーマニア）
SC・マグデバーグ（東独） 18（9－8、9－7）15 パルティザン・プジェロバール（ユーゴ）
VfL・グンメルスバッハ（西独） 25（13－8、12－6）15 バルセロナ・グラノーラス（スペイン）

▽同第2戦

VfL・グンメルスバッハ 16（7－5、9－7）12 バルセロナ・グラノーラス

▽女子準々決勝第1戦

テイミソアラ大（ルーマニア） 14（9－5、5－5）10 HG・コペンハーゲン（デンマーク）

▽同第2戦

HG・コペンハーゲン 10（5－3、5－3）6 ティミソアラ大

このほかスパルタク・キエフ（ソ連）FC・ニュールンベルグ（西独）フエレンクバロス・ブダペスト（ハンガリー）がベストフォアに勝ち残っている。

IHFバウマン会長逝去

日本協会に入ったIHFからの公電によるとバウマンIHF会長は急逝されたとのことであった。

詳細は次号

アマチュア規程集

- 日本体育協会
- 日本ハンドボール協会
- 国際ハンドボール連盟

アマチュアスポーツのあり方
日本体育協会・制定

スポーツは人々が楽しみと、よりよく生きるために、ほかから求められることなく、みずからの能力に応じて行なう自由な身体活動である。

明るい光とすがすがしい環境の中で行なわれるスポーツは、そのまま豊かな国民生活の形成に役立つものとなろう。

このようにしてはぐくまれるスポーツがあまねく国民の間に行きわたることによって、健康な国民がつくられ、正しいスポーツマンシップが生まれることを願い、ここにアマチュアスポーツを楽しむ人々のありかたを定めた。

アマチュア・スポーツマンは

一、スポーツを愛し、楽しむために、自発的に行なう。

二、ルールにしたがい、フェアプレーに終始する。

三、常に相手を尊重しつつ、自己の最善をつくす。

四、スポーツを行なうことによって物質的利益を求めない。

五、スポーツによって得た名声を利用しない。

（一九七一・一・一から適用）

日本体育協会 アマチュア規程

第一章 総 則

第一条 この規定は本会加盟の競技団体が、その団体のアマチュア規定を作るにあたって基準となる条項を定めたものである。

第二条 ここにいうアマチュア競技者とは、本会加盟の競技団体に登録している者をいう。

第二章 アマチュア競技者

第三条 アマチュア競技者は、その所属する競技団体のアマチュア規定によって規制される。

第四条 本会加盟の競技団体は次の者を競技者として登録できない。また、すでに登録した競技者が、次に該当した場合、その登録を取消さなければならない。

（一）スポーツで得た名声を商業宣伝のため使った者（二）スポーツをすることによって、所属競技団体の規定が認められている以外の金品を受取った者（三）授与された賞または副賞を金銭に替えた者（四）コーチを職業とした者またはしている者（五）本会または所属競技団体が禁止した競技会に参加した者（六）その他競技者としての品位または名誉を傷つけた者。

第三章 本会加盟の競技団体

第五条 本会加盟の競技団体は「アマチュア・スポーツのありかた」の趣旨を体して、アマチュア・スポーツの発展、普及をはからなければならない。

第六条 本会加盟の競技団体は競技会を開催するに当たって、他の団体を共催、後援あるいは協賛者として加えることができる。競技会を利用して行なう商業宣伝はあらかじめ本会の承認を得なければならない。ただし競技会のプログラム、ポスターを利用する場合はこの限りでない。

第七条 本会加盟の競技団体は競技者が直接使用する被服または用器具に、広告を記載したものを使用し、または使用させることはできない。

第八条 本会加盟の競技団体が関係する競技会の賞は、原則としてトロフィー、カップ、たてなどとする。副賞を授与するときは、競技会の品位を傷つけず、また宣伝に利用されないものに限る。

第九条 本会加盟の競技団体はその使用する競技用器具等の正確を保証し、あるいは競技者の技術の向上、安全をはかるため、検定料をとって、これらのものを検定することができる。

第十条 本会加盟の競技団体は競技者が放送、座談会、その他の行事に出演、参加を求められた場合は、あらかじめ届け出させ、それへの参加、出演が競技者としてふさわしくないと認めたときは、これを禁止しなければならない。

第四章 本会加盟団体の役員

第十一条 本会加盟団体の役員は、常に品位と名誉を重んじ、競技者の模範となるよう行動しなければならない。前項役員のうち、コーチ、トレーナー、あるいはチーム編成の際の役員等についてはかならずしもアマチュアであることを要しない。

第五章 補 則

第十二条 本会加盟の競技団体は本規定に従って、それぞれの団体に所属する競技者を規制するアマチュア規定を制定しなければならない。その規定を制定、改廃する場合は、必ず本会に申出て、その承認を得なければならない。そ

の競技団体が、それぞれ加盟する国際競技連盟のアマチュア規定に拘束される場合は、前項の申出をなすに当たり、その国際競技団体のアマチュア規定の全文を添付しなければならない。

第十三条　本会は、本会加盟の競技団体が本規定に違反すると認めたときは、その団体に注意を与え、本会主催事業と派遣競技会への参加を禁止することができる。

付則・本規定は昭和46年1月1日より施行する。

日本ハンドボール協会アマチュア規程

第1条　この規程でアマチュアとは純粋にスポーツの立ち場からハンドボール競技に関係している者をいう。

第2条　日本ハンドボール協会並びに地方支部協会（以下「本会」という）の会員はハンドボールによって得た地位あるいは資格を資本化して左の各号に掲げる行為をしてはならない。

1．商品または製造業者から報酬をうけてその商品もしくは器具を使用すること。

2．商品または器具の製造業者による商品もしくは器具の宣伝広告のために自己の名をその利用に供すること

3．本会の許可を得ないで商店または製造業者の主催または後援する競技会などに出場すること

4．自己の執筆しない新聞または雑誌の掲載文に氏名を貸して謝礼として金品の授与を受けること

5．本会の許可を得ないで演劇および劇映画等に出演すること

第3条　本会の会員が他の団体もしくは個人から依頼を受けてハンドボールを指導する場合はその所属する団体の許可を受けねばならない。

第4条　本会の会員は、競技の参加またはその準備のために欠勤し、そのため給料の支払が受けられなかった理由で、その補いのために金銭を受けたり請求することができない。

第5条　本会の会員が競技または講習に参加した場合は別に定めるアマチュア旅費規程（注・日本ハンドボール協会旅費規程）の範囲内において、支給される旅費のほか他のいかなる費用も受けることができない。

第6条　この規程により会員に支給される費用は直接会員に渡さずにその会員の属する団体に支払うのを原則とする。

第7条　左の各号に該当するものはアマチュアの資格を失う。

1．報酬を受けるためにまたは何等かの物資上の利益のためにハンドボール競技に参加したもの。

2．日本ハンドボール協会の許可を得ないでアマチュア以外のものと競技したもの。

3．直接または間接に報酬を受けてハンドボールのコーチを行ったもの。ただし教職にあるものがその学校の職務としてハンドボールを指導する場合を除く。

4．競技で獲得した賞品（参加記念品などを含む）を売却、入質交換もしくは賃貸または報酬を受けて呈示したもの。

5．本会の所属する団体以外の団体が、競技による収入を目的とする競技会を開催した場合に、その競技会に直接または間接に参加したもの。ただし競技による収入が本会の許可を得て慈善的な目的に使用される場合はこの限りでない。

6．第5条規定により旅費の支給を受けたものが長期にわたり専業化した場合

第8条　前条各号の規定に違反してアマチュアの資格を失って非アマチュアの判定を受けたものが再びアマチュアの資格を得ようとする場合は左の各号に掲げる条件をそなえたうえ、本会アマチュア資格審査委員会の承認を受けなければならない。

1．非アマチュアの判定を受けてから満2ケ年を経過していること。

2．飜意の情が明らかで再び非アマチュアの判定を受けるような行為をしないという誓約をすること。

第9条　この規程は本会に加盟しているすべての団体の会員の全部に適用され、違反者は除名される。

附則1．本規程は昭和32年11月1日より施行する。

2．アマチュア旅費規程は「日本ハンドボール協会旅費規程」に準拠する。

3．アマチュア資格審査委員会に関する規程は別に定める（注・日本ハンドボール協会懲罰規程）

国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）アマチュア規程

1．スポーツへの関心のみでハンドボールに参加する者はすべてアマチュアである。

2．次の者はアマチュア資格を失う。

a．報酬をうけ、あるいは物質的利益を得るために選手としてハンドボール試合に参加する者はすべて。しかし、スポーツに対する特別の関与のために、あるいは達成された功績のために提供された記念品はその額が国内連盟によって定めた額をこえてないならば利益を得たと考え

られない。

b・国内連盟の承認なしに非アマチュア選手と一緒の、または非アマチュア人と対抗の試合に故意に参加した者。

c・直接、間接の報酬のためにハンドボールの監督またはコーチとして働いた者。

ただし、公・私の教育施設における体育及びスポーツの教師は除外される。

また、国内連盟が報酬を得てハンドボール競技を教えることに資格を与える専任アマチュアコーチに許可を与える際には、アマチュア資格を失わぬというこの規則の例外を認めることができる。ただし、この報酬はコーチの年間収入の重要な部分を占めてはいけない。

d・獲得した賞品を売却、入質交換、賃貸または報酬をうけて呈示するもの

e・競技収入の全部または一部がスポーツ上の目的、または国内連盟の事前の同意を得た慈善的目的以外の目的で使われるような競技にその役目を指導し、実行管理者のような役割を果たす者

f・物質的利益を得る意図で、競技者としての名前、写真、スポーツの能力を掲載する目的に利用されることを許す者、またはその道具、器具を商店に利用させることによって報酬を受けとる者。

3・アマチュアは、試合に該当する名前を備えていない限り、賞品または土産物を獲得するために試合に参加してはならない。

アマチュアは試合に際して往復旅行中及び試合中に汽車、船舶、寝台車、まかない費、宿泊の実費の支払い以外に他の形で金銭または補償金を受け取ってはならない。

いかなる場合にも、汽車または船舶の1等費用、1等寝台料金、食事および宿泊の正当な費用以上は支払れることはならない。

しかし、国内連盟は試合に参加することによって休業した労働賃金に対して補償金を割当てまたは支払いを許可する権限を有する。

この補償金の最高日額の決定は国内連盟の権限に属する。不必要に延期された労働の休暇に対する補償は支払われることができない。

失われた労働賃金に対する償いは、他のいかなる形式でも禁ぜられる。特に次のことは許されない。

a・練習中に失われた労働賃金に対して補償金を支払うこと

b・補償金を家族に払いこむこと、またはアマチュア規定の精神に他の方法で違反すること

事実に反する申立をして、不当な補償金を要求する競技者はアマチュア規定に違反する。

競技者はクラブまたは協会によって補償を受けるコーチの指導を受けることができる。

同ように競技者は練習中またはケガをした場合に、マッサージ師または専門家の世話を要求できる。

事故の際には、競技者はクラブまたは協会が保険料を支払う保険金支払を受けることができる。

もし競技者が負傷し保険がつけられていないか、または保険金がすべての費用をカバーしないならば競技者は、国内連盟の同意を得てクラブまたは協会から物質的な援助を受けることができる。

競技者は受けとった補償金全部の明細な受取証を出さねばならない。この受取証は常に国内連盟に整理されていなければならない。

4・国内連盟は審判員に特別な同連盟によって定められた規定に基いてその活動に対して補償を支払い、または支払うことを許可する権能をもつ。

5・クラブまたは協会において報酬で雇われる人の給与は、行われる労働に対しその土地で習慣的に与えられる給与と、明白に不均衡であってはならない。

選挙された相談役は国内連盟の同意がなければクラブまたは協会で雇われる報酬を受けとることはできない。

6・現行の規定を守らない者は、すべて非アマチュアと見なされハンドボールの全競技から除外される。またアマチュアハンドボール組織の会長として非アマチュア人を使うことは禁ぜられる。

ただし、国内連盟は情状を酌量し違反競技者に警告を発し、あるいはアマチュア資格を奪う代りに、ある期間、競技から除外することで罰することができる

さらに、国内連盟は事情がそれを証明する場合にはかなりの期間後にアマチュア資格を再び与える権利がある。

7・もし国内連盟が現行の規定にしたがわないならば、国際ハンドボール連盟は個々の場合を調査した後に、該当協会に対して必要な措置をとるものとする。

（IHFハンドブック一九六六年版より）

スワロー兵庫沖縄へ

スワロー兵庫は教職員連盟の推薦と沖縄協会の協力の下に昨12月25日～29日の5日間那覇市を中心に3試合の親善試合を行なった。

この遠征が実現するまでには、44年8月からの詳細な計画の検討がなされている。

遠征メンバー　務台良紀（団長）狩野幸介・白井勇（審判）、藤原豊（監督）、本根一衛（主務）、幸田末之（FP・主将）、新井節男・上野清（GK）、高郷久郎・泉幸男・浜野修・栗山繁則・畑憲作・北山隆・大原康昇・井上亮一・森皓一・木野明・梅田幹夫（FP）

スワロー兵庫 26（12－8　14－6）14 興南高
スワロー兵庫 24（12－8　12－9）17 沖縄教員
スワロー兵庫 34（26－11　9－18）29 琉球大

興南高はインターハイで吸収した好プレーを見せたが、次第に個人技の差が現れた。沖縄教員も力をあげているが今一歩の力不足。琉球大とは前後半でメンバーを替えたので、このようなスコアになった。

この遠征中、基本プレー応用プレーの公開ゲームを行ない、いささか沖縄ハンドボール界に寄与したと信じている。

年末の多忙なときにお世話載いた仲田会長、平仲理事長ほか沖縄協会諸氏に感謝いたします。（藤原豊・白井勇）

各地の記録

一般男子は北大勝つ
室蘭商（高女）圧倒的

第10回全北海道室内選手権は昨年12月26、27日の両日室蘭市立体育館で行われ一般男子は北大が全室蘭商、教員クを破って優勝した新人戦を兼ねた高校の部は、男子では室蘭東が延長の末、函館大谷をおさえ、女子は総合力にまさる室蘭商が圧倒的な強さで栄冠をにぎった。

▽一般男子決勝リーグ
北海道大 17（10－8　7－4）12 全室蘭商
北海道大 21（12－9　9－8）17 教員ク
全室蘭商 18（10－5　8－9）14 教員ク

▽高校男子1回戦（1試合）
登別 16－4 室蘭商

▽同準々決勝
函館有斗 15（8－6　7－3）9 登別大谷
函館大谷 25（17－2　8－3）5 室蘭栄
紋別北 18（12－4　6－7）11 室蘭工
室蘭東 16（6－3　10－1）4 登別

▽同準決勝
函館大谷 17（1－2　2－0：6－6　8－8）16 紋別北
室蘭東 17（9－9　8－6）15 函館有斗

▽同決勝
室蘭東 15（1－2　4－0：7－7　3－3）12 函館大谷

▽高校女子準決勝（＝1回戦）
室蘭商 13（9－3　4－1）4 室蘭栄
登別 6（4－3　2－2）5 紋別北

▽同決勝
室蘭商 12（3－0　9－0）0 登別

決定戦で大同製鋼
女子はブラザー勝つ

愛知球界の総決算・昭和45年度愛知リーグは昨年12月1日から9日までの7日間、名古屋市体育館で行われた。

独走を予想された大同製鋼が第4戦で現役学生を加えた桜丘会の健斗にあい引き分け、4勝1分に終った。

一分、桜丘会は3勝1分で最終戦（対鯱ク）を迎え15点差以上をつけて勝てば優勝というケースになったが惜しくも27－13と14点差にとどまり、この結果、大同、桜丘会がともに4勝1分、得失点差28とまったくの同率、1月　日両者で優勝決定戦を争い、30－14で大同製鋼が優勝をとげた。

今年から始められた女子は、ブラザー工業が学生勢と名古屋クをおさえて優勝した。

▽男子リーグ
鯱ク 12（8－4　4－7）11 中京大
大同製鋼 17（7－9　10－4）13 新日鉄名古屋
大同製鋼 18（17－3　11－5）8 名城大
桜丘会 23（12－8　11－5）13 新日鉄名古屋
中京大 13（4－4　9－5）9 新日鉄名古屋
桜丘会 15（9－5　6－8）13 名城大
名城大 20（9－6　11－5）11 新日鉄名古屋
桜丘会 13（5－7　8－4）11 中京大
大同製鋼 18（7－7　11－6）13 鯱ク
大同製鋼 14（6－7　8－7）14 桜丘会　引き分け
鯱ク 22（11－8　11－8）16 新日鉄名古屋
大同製鋼 19（12－2　7－8）10 中京大
名城大 17（10－10　7－5）15 鯱ク
中京大 17（12－2　5－5）7 名城大
桜丘会 27（11－5　16－8）13 鯱ク

【順位】①大同製鋼4勝1分②桜丘会4勝1分③中京大2勝3敗④名城大2勝3敗⑤鯱クラブ2勝3敗⑥新日鉄名古屋5敗（1、2位

は優勝決定戦による3、4、5位
は得失点差)
▽優勝決定戦
大同製鋼 30（13−4、17−10）14 桜丘会
▽女子リーグ
名古屋ク 9（6−1、3−0）1 中京大
ブラザー工業 10（7−1、3−2）3 中京大
名古屋ク 8（4−1、4−5）6 中京女大
中京大 9（5−4、4−4）8 中京女大
ブラザー工業 10（5−2、5−3）5 名古屋ク
ブラザー工業 12（5−1、7−3）4 中京女大
【順位】①ブラザー工業3戦全勝
②名古屋ク2勝1敗③中京大1勝
2敗④中京女大3敗

鶴崎工Cが優勝

第10回大分県室内給合(1月・大分鶴崎工商)
▽男子準々決勝
大分教員 28−21 鶴崎工A
鶴崎工C 24−1 大分商高
鶴崎工B 21−12 昭和電工
大竜会 17−16 大東OB
▽同準決勝
鶴崎工C 20−16 大分教員
鶴崎工B 19−17 大竜会
▽同決勝鶴
鶴崎工C 12（8−5、4−6）11 鶴崎工B
▽
鶴崎工は初優勝

大分東高 13−3 青山高OG
大分東高OG 12−7 別府青山高
▽同決勝
大分東高OG 17（6−3、11−6）9 大分東高
大分東高OGは二年連続二度目の優勝

天城・真備が優勝

岡山県室内選手権(1月、岡山県営体育館)
▽一般男子準々決勝
児島高OB 27−14 岡山教員ク
全倉敷 23−12 九州耐火
岡山大学 11−11 天城高OB
(岡山大学の抽せん勝ち)
▽同準決勝
児島高OB 棄権
全倉敷 23−14 岡山大学
▽同決勝
全倉敷 17（7−6、10−8）14 児島高OB
▽高校男子準々決勝
天城高 10−8 津山工
児島高 22−9 岡山工
操山高 12−8 津山高
津山商 13−9 倉敷商
▽同準決勝
天城高 18−13 児島高
操山高 12−10 津山商
▽同決勝
天城高 15（8−2、7−7）9 操山高
▽高校女子準々決勝(二試合)
金川高 棄権 井原高
操山高 13−4 西大寺高
▽同女子準決勝
津山商 10−9 金川高
真備高 35−0 操山高
▽同決勝
真備高 7（3−2、4−2）4 津山商

ワクナガイーグルスに敗る

大阪室内選手権(1月・大阪)
▽一般男子一回戦(四試合)
北淀ク 21−9 デンタルス
寝屋川ク 19−15 大体大
待兼ク 9−8 大山商会
八尾ク 20−9 上ノ宮ク
▽同二回戦
大商ク 21−7 豊中ク
春日丘ク 22−6 北陽ク
松ケ枝ク 17−11 北淀ク
寝屋川ク 25−8 西野田ク
待兼ク 21−14 大阪大
八尾ク 25−19 大阪ガス
佐野工ク 24−16 三国丘ク
イーグルス 15−14 ワクナガ
▽同準々決勝
大商ク 24−10 松ケ枝ク
春日丘ク 20−10 待兼ク
佐野工ク 12−11 寝屋川ク
イーグルス 30−8 八尾ク
▽同準決勝
大商ク 16−13 春日丘ク
イーグルス 21−12 佐野工ク
▽同決勝
大阪イーグルス 24（12−5、12−7）12 大商ク
▽一般女子準決勝
大谷ク 10−3 大阪スターズ
大体大 18−4 寝屋川ク
▽同決勝
大谷ク 10（4−2、6−2）4 大体大

岡野バルブが優勝

第17回福岡県室内選手権(1月・福岡)
▽一般男子準々決勝
西南大 12−6 博送ク
北九州ク 15−13 ブリジストン
西南大OB 11−8 香椎ク
岡野バルブ 14−10 東海大五OB
▽同準決勝
西南大 13−6 北九州ク
岡野バルブ 21−16 西南大OB
▽同決勝
岡野バルブ 14（8−7、6−6）13 西南大
▽一般女子準決勝
明善ク 9−2 古賀ク
筑女ク 11−7 福岡教育大
▽同決勝
筑紫女学園ク 10（3−1、7−1）2 明善ク

香椎、延長で小倉西破る

▼第17回福岡県高校室内選手権(12月・小倉体育館)
▽男子準々決勝
筑紫中央 9−8 福岡工
香椎 9−6 嘉穂農
小倉西 15−2 西南
久留米工 11−10 博多工
▽同準決勝
香椎 19−10 筑紫中央
小倉西 18−5 久留米工
▽同決勝
香椎 8（3−5、4−2、1−0、0−0）7 小倉西
▽女子準々決勝
明善 8−5 筑紫中央
室見丘女 4−3 筑紫女
福岡女商 不戦勝 東海五
古賀 11−0 信愛女
▽同準決勝
明善 13−4 室見丘女
古賀 13−3 福岡女商
▽同決勝
古賀 9（6−0、3−3）3 明善

添上男子圧倒的強さ

——男女とも優勝——

奈良県高校選手権・新人大会(1月・奈良)
▽男子準々決勝
添上高 13−4 生駒高
東大寺高 20−7 畝傍高
奈良高 14−4 十津川高
榛原高 8−4 正強高
▽同準決勝
添上高 14−4 東大寺高
奈良高 16−9 榛原高
▽同決勝
添上高 10（4−0、6−0）0 奈良高
▽高校女子準々決勝(一試合)
生駒高 12−2 郡山高
▽同準決勝
添上高 5−1 生駒高

十津川高 15－4 桜井商高

▽同決勝

添上高 5（3－1、2－3）4 十津川高

ワクナガ薬品他をよせつけず

第14回大阪実業団リーグ（大阪・1月15～27日）

ワクナガ 29－10 大阪ガス
大山商会 20－15 宗形製作所
ワクナガ 37－12 美津濃
大山商会 24－7 大阪ガス
宗形製作所 35－11 美津濃
宗形製作所 20－17 大阪ガス
大阪ガス 21－16 美津濃
ワクナガ 19－8 大山商会
大山商会 28－9 美津濃
ワクナガ 19－9 宗像製作所

①ワクナガ薬品4勝②大山商会3勝1敗③宗形製作所2勝2敗④大阪ガス1勝3敗⑤美津濃4敗

常盤工業五連勝

第12回岐阜県室内選抜（岐阜県民体育館、1月17・24日）

▽男子準々決勝

常盤工業 13－12 岐山高
加納高 12－6 多治見高
不破高 16－7 岐阜商高
岐西ク 24－12 斐実高

▽同準決勝

常盤工業 14－12 加納高
岐西ク 18－12 不破高

▽同決勝

常盤工業 20（8－8、12－6）14 岐西ク

▽女子準々決勝

大洋紡 19－4 岐商高
加納高 6－1 益田高
岐阜選抜 20－4 養老女商高
本巣高 4－1 大垣南高

▽同準決勝

大洋紡 6－5 加納高
岐阜選抜 9－1 本巣高

▽同決勝戦

大洋紡 8（3－2、5－4）6 岐阜選抜

三本木、初優勝

第1回県教育長杯高校大会（県営体育館、1月9日・10日）

▽男子リーグ戦

青森商 12－7 鰺ケ沢高
青森高 13－13 柏木農
三本木高 14－7 七戸高
青森商 10－9 柏木農
三本木高 20－6 鰺ケ沢高
青森高 9－7 七戸高
三本木高 14－10 青森商
七戸高 15－10 柏木農
青森高 14－10 鰺ケ沢高
青森商 8－7 七戸高
三本木高 13－13 青森高
鰺ケ沢高 13－8 柏木農
青森高 7－6 青森商
鰺ケ沢高 13－8 七戸高
三本木高 17－8 柏木農

①三本木高4勝1分②青森高3勝2分③青森商3勝2敗④鰺ケ沢高2勝3敗⑤七戸高1勝4敗⑥柏木農1分4敗

▽女子

青森西高 棄権 大湊

大同製鋼危気なく勝つ

愛知県実業団、リーグは、1月18日から、27日までの間名古屋市体育館を使い開催された。

大同製鋼は全く危気なく、新日鉄名古屋、日本碍子、トヨタ車体などを連破し、覇権を握った。

▽一部リーグ戦

日本碍子 15－14 トヨタ車体
大同製鋼 28－9 三菱重工
三菱重工 17－13 日本碍子
三菱重工 20－10 トヨタ車体
大同製鋼 23－7 トヨタ車体
新日鉄 21－6 三菱重工
新日鉄 29－16 日本碍子
トヨタ車体 12－11 新日鉄
大同製鋼 34－8 日本碍子
大同製鋼 21－16 新日鉄

〔順位〕①大同製鋼4勝②新日本製鉄名古屋2勝2敗③三菱重工2勝2敗④トヨタ車体1勝3敗⑤日本碍子1勝3敗（2、3位4、5位は得失点差による）

▽二部リーグ戦

パイロット 31－14 中電
ブラザー 22－7 中電
タヨシ 22－14 工機
パイロット 19－16 ブラザー
工機 20－15 トヨタ自工
トヨタ自工 23－20 タヨシ
工機 22－14 ブラザー
タヨシ 20－17 パイロット
トヨタ自工 24－5 中電
ブラザー 20－19 タヨシ
パイロット 14－14 工機
ブラザー 23－10 トヨタ自工
タヨシ 17－14 中電
工機 9－6 中電
パイロット 28－18 トヨタ自工

〔順位〕①パイロット3勝1分1敗②工機3勝1分1敗③ブラザー3勝2敗④タヨシ3勝2敗⑤トヨタ自工2勝3敗⑥中部電力5敗（1、2位3、4位は得失点差）

日本ハンドボール協会は次の二会議を日本体育協会で予定している。

3月6日（土）新スタッフによる理事会

3月7日（日）定例評議員会

・編・集・後・記・

本年度最後の機関誌をお届けします。現スタッフの最後の雑誌です。

来年度はグンメルスバッハの来日を初めとして大きな行事が目白押しです。その中でも最大のものはミュンヘンオリンピック予選です。

この予選問題の決着がつかないまま、新年度を迎えるのは何とも残念です。よりよい方向で速やかに決定することを望みたいものです。財政的にも、明年度はきわめて厳しくなることが予想されます。本誌も少しでも読者を多くしより多くのハンドボールファンに本誌を読んでもらうこととともに、協会の財政に少しでも寄与できるようにしたいと思っています。

現読者の方は引き続き、講読をお願いしたいと思いますし、少しでも多くの方に読んでいただけるように読者の増加に力をお借し下さるようにお願いします。

各チーム内でも、チームだけでなく、一人でも、二人でも個人講読の方が増えて下さるようにお願いしたいと思います。

審判員の方々にとっても、本誌にしばしば重要な決定事項が掲載されているのですから、ぜひとも個人で講読されるようにおすすめしたいと思います。

本誌も84号を数えた。このところ投稿原稿や各地の記録への投稿が多く、ハンドボールの歩みや、コーチシンポジウム報告を掲載するスペースがなく、二、三号休載にしてしまっている。これは決して忘れた訳でなく、今後とも連載していくつもりである。

特にハンドボールの歩みの場合あと二、三回で終了のつもりであるが四月号にもすでに多くの原稿がよせられていて、メドがつかない、早くしないと忘れられそうであせるがしようがない、そんな状態が続いている。

この傾向はたいへん喜ばしいことだと思う。みなさんがハンドボールを自分のものと考えていてくださればのことだと思うから、投稿を大いに歓迎します。（T・F）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第八十四号
昭和四十年六月七日第三種郵便物認可
昭和四十六年二月二十五日印刷
和四十六年三月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話(代表)(467)三二一一
振替 五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価百五十円
(年間購読11回・千二百円)